

# 茂原市総合計画策定のための 市民アンケート結果報告書

令和元年 10 月



## 目次

■調査の概要	1
1. 目的	1
2. 調査方法	1
3. 回収結果	1
4. 集計上の注意事項	1
■調査の結果	2
1. あなた自身のことについて	2
問1. 性別	2
問2. 年齢	2
問3. 居住地区	3
問4. 住居	3
問5. 居住年数	4
問6. 職業	4
問7. 通勤・通学地	5
問8. (1) 家族の人数	5
問8. (2) 世帯構成	6
2. 茂原市での暮らしについて	7
問9. 茂原市の住みごころ	7
問10. 集まれる場所	9
問11. 助けてくれる人	11
問12. 将来への希望	14
問13. 定住意向	16
問13-1. 住み続けたい理由	18
問13-2. 移住したい理由	19
問14. 自治会や町内会活動への参加	20
問14-1. 参加した理由	23
問14-2. 参加していない理由	24
3. 茂原市のイメージについて	25
問15. 茂原市のイメージ	25
問16. 大切にしたい地域の財産	26
問17. 10年後の茂原市	28
問18. 長生地域で果たす役割	31
4. 茂原市のまちづくりについて	32
問20. 今後力を入れてほしい分野	34
問21. 充実してほしい施設・サービス	35
問22. 市政への参加方法	36
問23. 産業振興	37
問24. 若者の起業・創業	38
問25. 移住者	39
問26. 子育てしやすいまちづくり	40
問27. 圏央道の整備効果	41

## ■調査の概要

### 1. 目的

茂原市では、人口減少や少子高齢化などによる社会・経済情勢の変化に対応し、長期的視点に立ったまちづくりを進めるため、今後 10 年間の市政運営の指針となる次期総合計画の策定を行っています。

この調査は、計画策定にあたり、茂原市が目指すべき方向性について、市民の意向をうかがうため実施しました。

### 2. 調査方法

(1) 調査期間	令和元年7月
(2) 調査対象	市内在住の20歳以上の男女
(3) 対象者数	3,000人
(4) 抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
(5) 調査方法	郵送による配布・回収

### 3. 回収結果

(1) 配布数	3,000票
(2) 回収数	801票
(3) 回収率	26.7%
(4) 有効回答数	801票

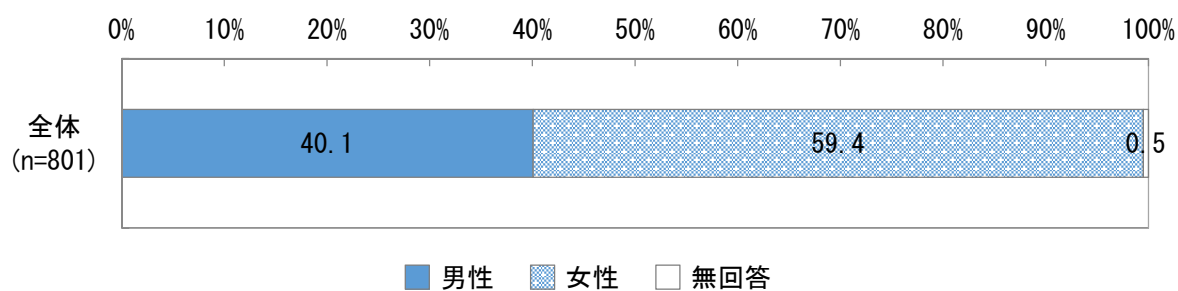
### 4. 集計上の注意事項

- 図表中の (n=\*) の数値は、集計母数を表しています。
- 回答の比率 (%) は、その設問の回答者数を母数として算出しています。そのため、複数回答の場合、選択肢ごとの割合を合計すると 100% を超えることがあります。
- 回答の比率 (%) は、小数点以下第 2 位を四捨五入しています。そのため、属性ごとの回答比率の合計が 100% にならないことがあります。

## ■調査の結果

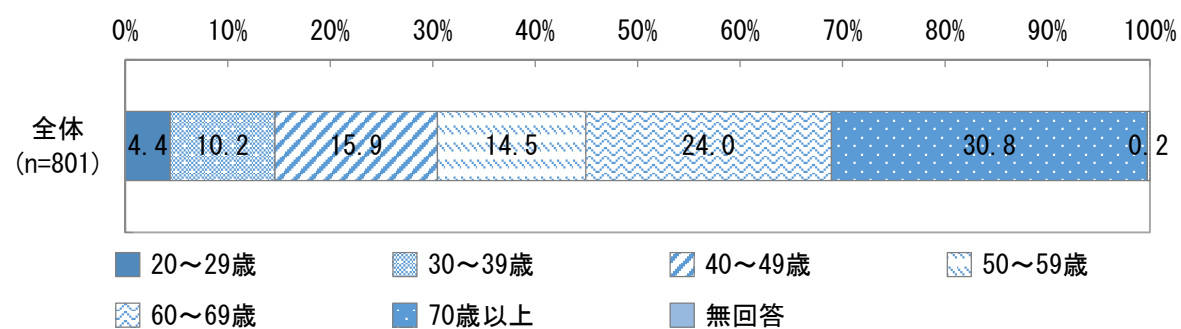
### 1. あなた自身のことについて

問1. **性別** (○は1つだけ)



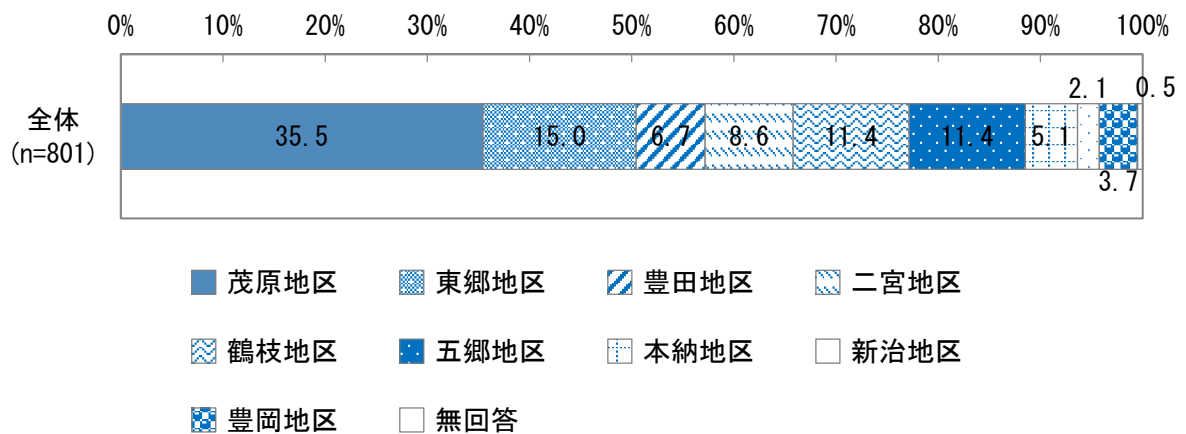
性別については、「女性」(59.4%)が「男性」(40.1%)より多くなっています。

問2. **年齢** (○は1つだけ)



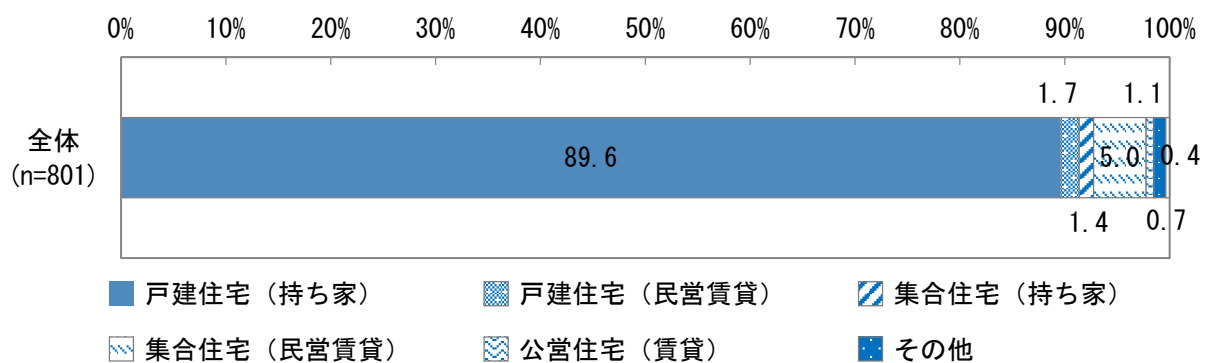
年齢については、「70歳以上」(30.8%)が最多で、次いで「60~69歳」(24.0%)、「40~49歳」(15.9%)となっています。

問3. **居住地区** (〇は1つだけ)



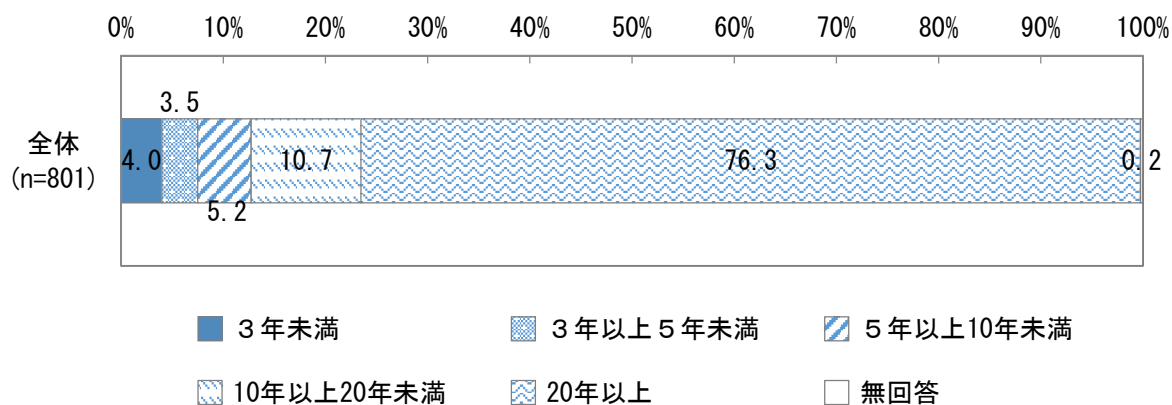
居住地区については、「茂原地区」が35.5%で最多です。このほか、「東郷地区」(15.0%)、「鶴枝地区」(11.4%)、「五郷地区」(11.4%)、「二宮地区」(8.6%)、「豊田地区」(6.7%)、「本納地区」(5.1%)、「豊岡地区」(3.7%)、「新治地区」(2.1%)となっています。

問4. **住居** (〇は1つだけ)



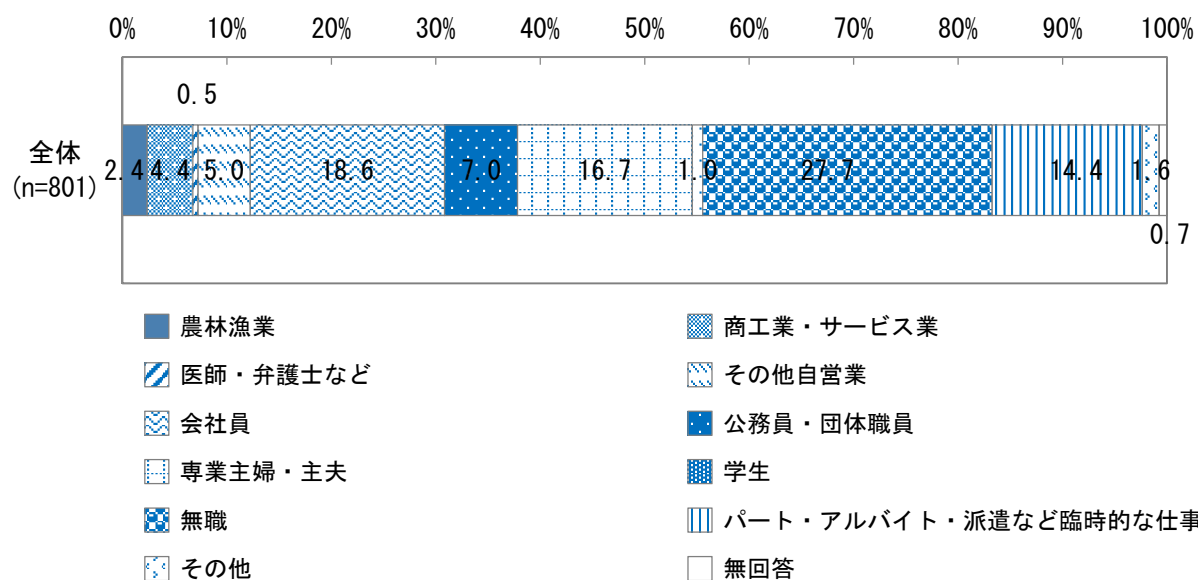
住居については、「持ち家の戸建」が89.6%で約9割を占め、次いで「集合住宅(民営賃貸)」が5.0%となっています。

問5. **居住年数** (〇は1つだけ)



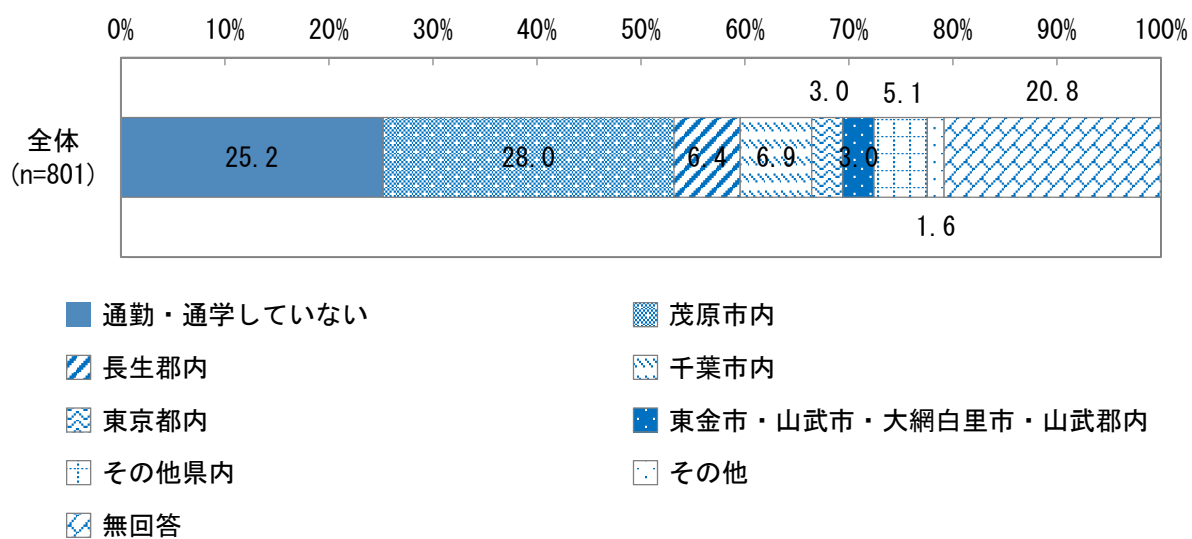
居住年数については、「20年以上」が76.3%を占めています。このほか、「10年以上20年未満」が10.7%で、「20年以上」と合わせて、10年以上市内に居住しているとの回答が計87.0%と、9割近くに上っています。

問6. **職業** (〇は1つだけ)



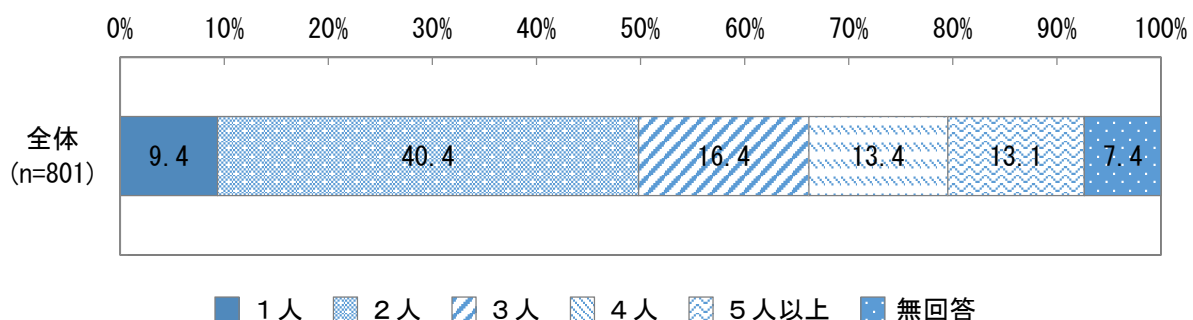
職業については、最多の「無職」(27.7%)を除くと、「会社員」(18.6%)、「専業主婦・主夫」(16.7%)が拮抗しており、次いで「パート・アルバイト・派遣など臨時的な仕事」(14.4%)「公務員・団体職員」(7.0%)となっています。

問7. **通勤・通学地** (〇は1つだけ)



通勤・通学地については、「茂原市内」が28.0%、「長生郡内」が6.4%で、計34.4%の回答者が市内をはじめ近隣で就労・就学していることが分かります。また、上記2項目と「千葉市内」(6.9%)、「東金市・山武市・大網白里市・山武郡内」(3.0%)、「その他県内」(5.1%)を合計すると計49.4%で、県内に通勤・通学する回答者が約半数に上ることが分かります。

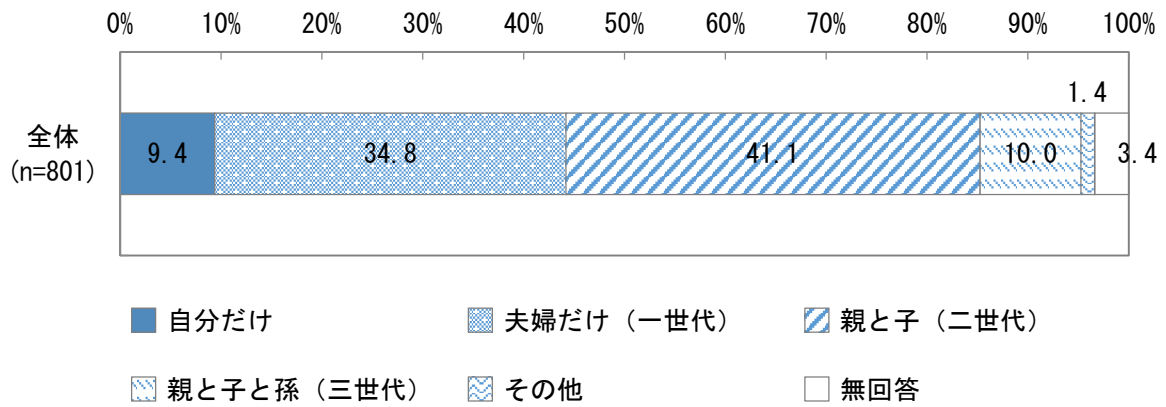
問8. (1) **家族の人数**



家族の人数に関しては、「2人」が40.4%と最多で、次いで「3人」(16.4%)、「4人」(13.4%)、「5人以上」(13.1%)、「1人」(9.4%)の順でした。複数人の世帯が全体の8割を占めています。



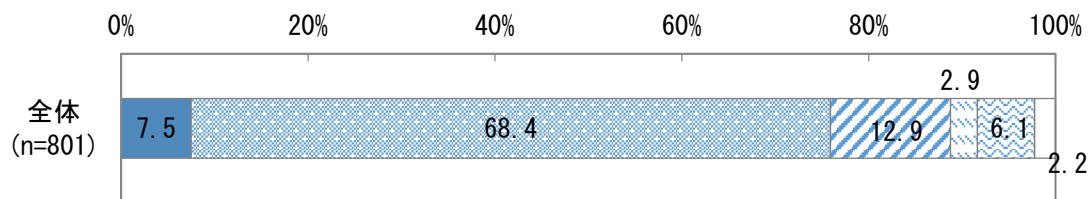
問8. (2) **世帯構成** (〇は1つだけ)



世帯構成については、「親と子 (二世世代)」が 41.1%と最多で、4 割を占めています。次いで、「夫婦だけ (一世代)」(34.8%)、「親と子と孫 (三世世代)」(10.0%) との順になっています。

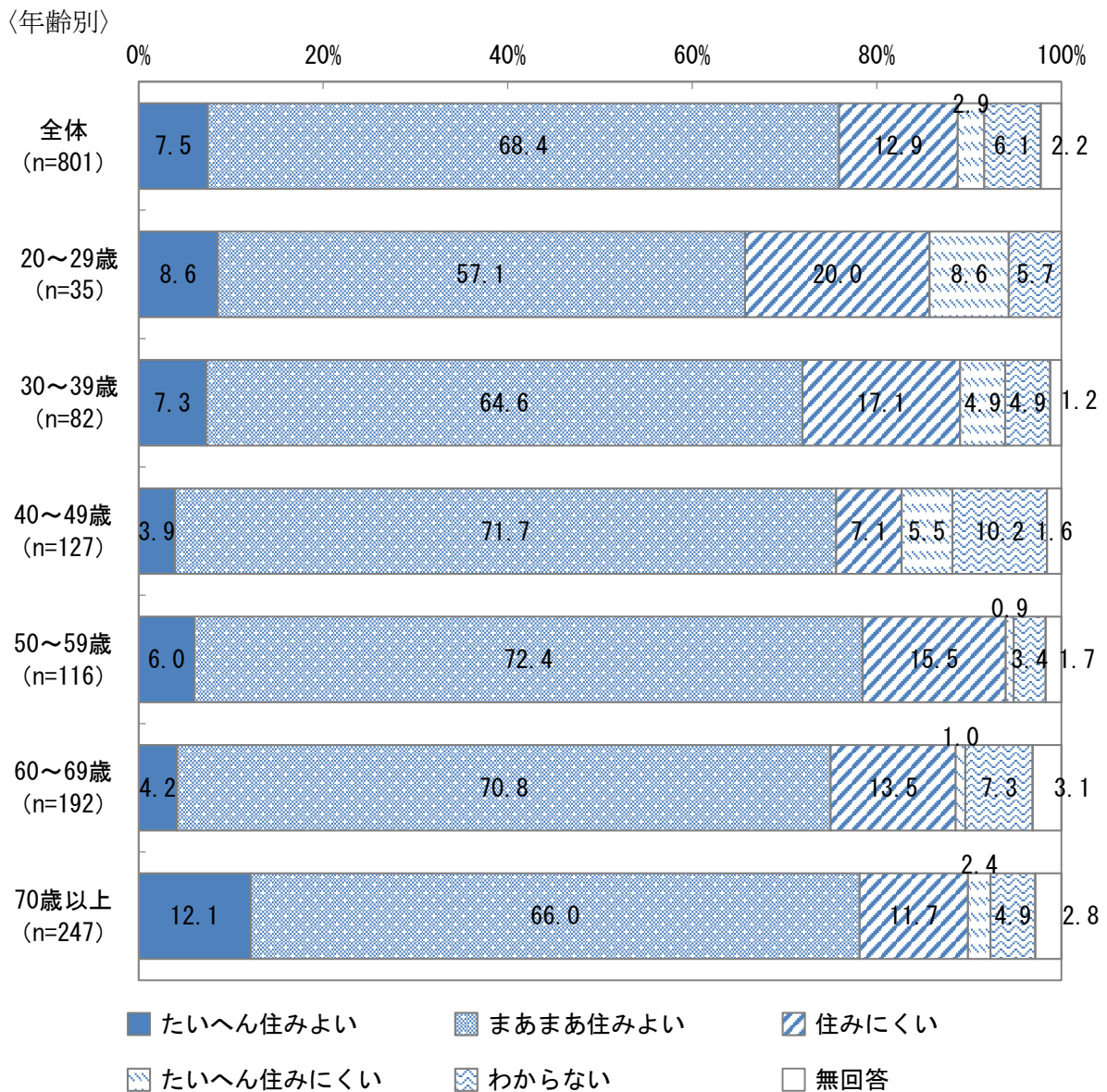
## 2. 茂原市での暮らしについて

問9. 茂原市の住みごころ (〇は1つだけ)



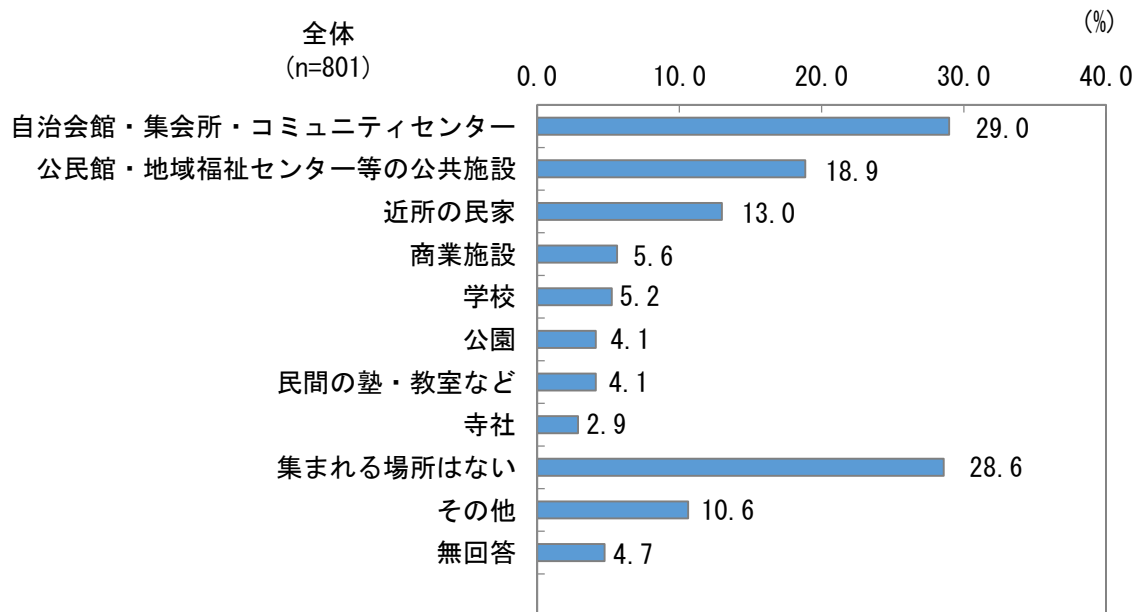
- たいへん住みよい
- まあまあ住みよい
- 住みにくい
- たいへん住みにくい
- わからない
- 無回答

茂原市の住みごころについては、「まあまあ住みよい」との回答が最多で、68.4%を占めています。次いで、「たいへん住みよい」が7.5%となっており、両選択肢を合わせた肯定的な回答は計75.9%に上っています。他方、「住みにくい」(12.9%)「たいへん住みにくい」(2.9%)を合わせた否定的な回答は計15.8%でした。



茂原市の住みごちについて、年齢別に見ると、「たいへん住みよい」は70歳以上(12.1%)に次いで、20代(8.6%)が2番目に多くなっています。また、「たいへん住みよい」と「まあまあ住みよい」を合わせた肯定的な回答は、50代(78.4%)、70歳以上(78.1%)、40代(75.6%)の順に多くなっています。

問10. **集まれる場所** (〇はいくつでも)



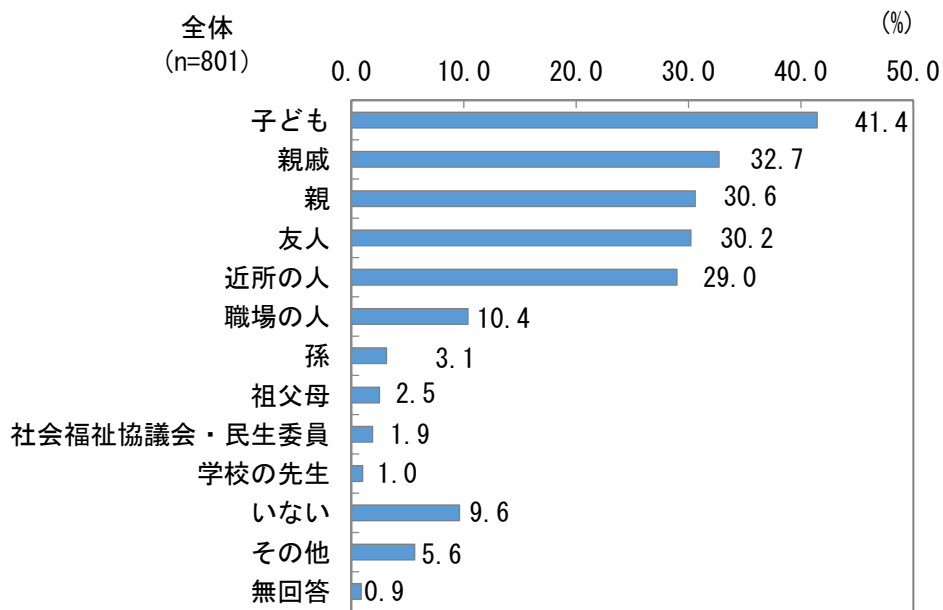
他の住民と集まれる場所については、「自治会館・集会所・コミュニティセンター」(29.0%)が最多でした。次いで「公民館・地域福祉センターなどの公共施設」(18.9%)となっており、市に関連した公的な施設が集まれる場として機能していることが分かります。他方、「集まれる場所はない」との回答も28.6%と3割近くを占めています。

〈年齢別〉 ※網掛けは濃～淡の順に上位3位を表す

	公民館・地域福祉センター 公共施設等	学校	公園	寺社	民間の塾・教室など	近所の民家	商業施設	自治会館・集会所・ コミュニティセンター	その他	集まれる場所はない	無回答
全体 (n=801)	33.5	21.3	16.1	8.5	6.0	4.4	4.2	1.1	14.6	21.9	
20～29歳 (n=35)	11.4	2.9	5.7	-	-	2.9	2.9	8.6	5.7	65.7	-
30～39歳 (n=82)	9.8	11.0	8.5	-	4.9	8.5	2.4	12.2	12.2	41.5	6.1
40～49歳 (n=127)	11.8	19.7	6.3	1.6	4.7	6.3	9.4	18.9	9.4	33.9	2.4
50～59歳 (n=116)	13.8	2.6	1.7	-	1.7	10.3	8.6	23.3	11.2	39.7	0.9
60～69歳 (n=192)	20.3	0.5	2.6	3.1	3.6	13.0	5.7	37.0	8.9	24.5	6.8
70歳以上 (n=247)	27.1	1.2	3.6	5.7	5.7	20.2	3.2	38.9	12.6	14.6	6.5

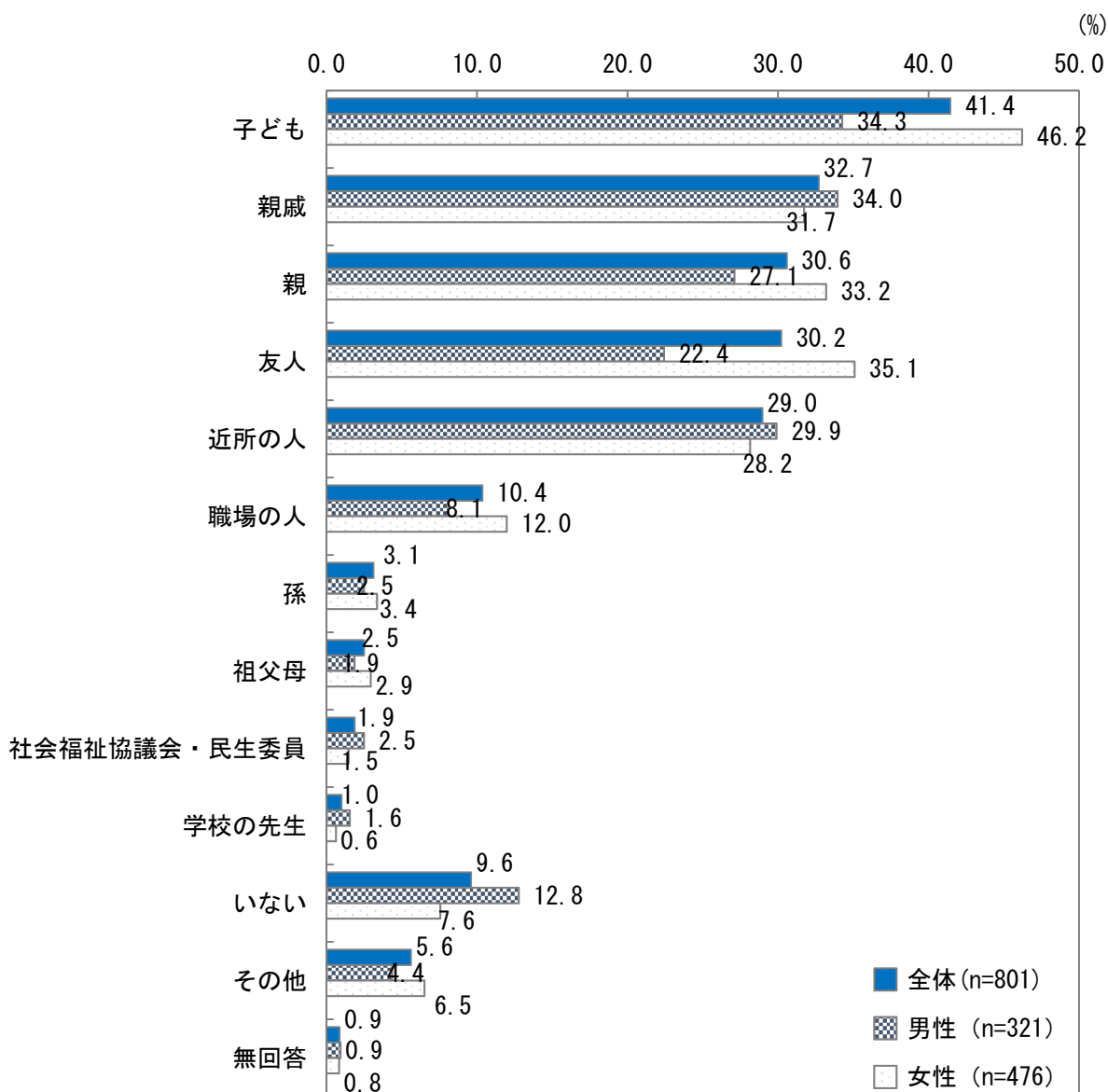
集まれる場所について、年齢別に見ると、「集まれる場所はない」としたのは20代が65.7%で最多でした。30代、40代では、「学校」を選択した人がそれぞれ11.0%、19.7%おり、子育て世代にとって、学校がコミュニティの場になっていることがうかがえます。他方、60代、70歳以上は「自治会館・集会所・コミュニティセンター」とした回答がそれぞれ37.0%、38.9%で、高齢者にとっては従来の地縁型コミュニティが社会関係の拠り所となっていることが分かります。

問1 1. 助けてくれる人 (〇はいくつでも)



困ったことがあった時に、助けてくれる人については、「子ども」(41.4%)が最多の一方で、「親戚」(32.7%)、「親」(30.6%)もそれぞれ30%を超えており、家族や親戚を頼りにする回答者が多いことが分かります。他方で、「友人」(30.2%)や「近所の人」(29.0%)も30%前後を占めており、地域の間人関係に基づく相互扶助機能が、一定の働きを見せていると考えられます。

〈性別〉



助けてくれる人について、性別に見ると、「子ども」と回答した女性は 46.2%いたのに対し、男性は 34.3%にとどまっており、10 ポイント以上の差があります。また、「友人」について、女性の回答は 35.1%だった一方、男性は 22.4%でこちらも大きな差が生じています。

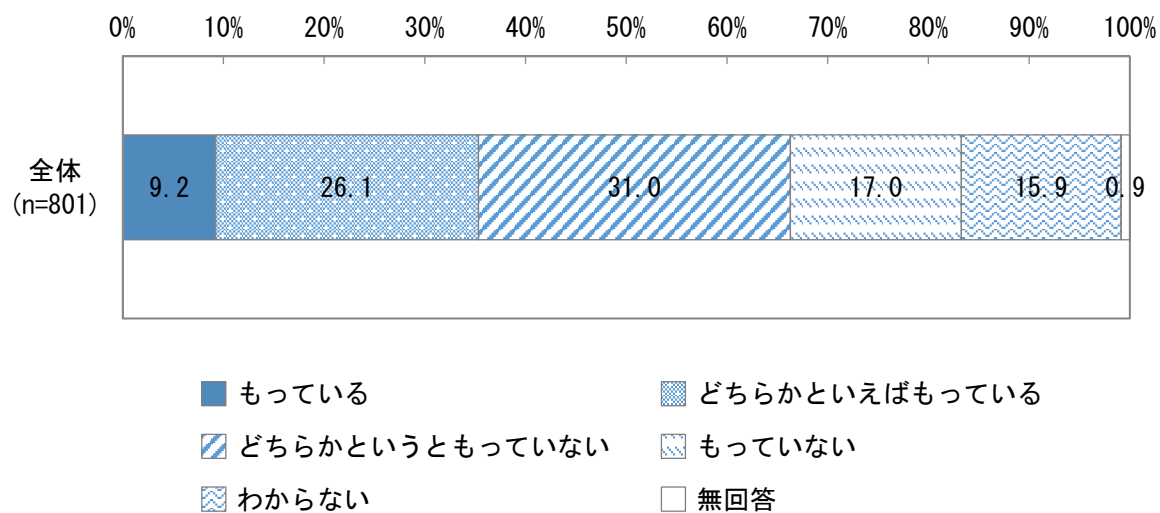
〈年齢別〉 ※網掛けは濃～淡の順に上位3位を表す

	親	祖父母	子ども	孫	親戚	友人	近所の人	学校の先生	職場の人	社会福祉協議会・民生委員	その他	いない	無回答
全体 (n=801)	30.6	2.5	41.4	3.1	32.7	30.2	29.0	1.0	10.4	1.9	5.6	9.6	0.9
20～29歳 (n=35)	65.7	20.0	-	-	22.9	48.6	5.7	-	14.3	2.9	8.6	17.1	-
30～39歳 (n=82)	78.0	3.7	2.4	-	15.9	35.4	14.6	1.2	15.9	-	9.8	6.1	-
40～49歳 (n=127)	66.9	5.5	12.6	-	20.5	37.8	14.2	3.1	19.7	0.8	3.1	11.8	-
50～59歳 (n=116)	47.4	0.9	42.2	-	38.8	35.3	31.0	0.9	22.4	1.7	8.6	8.6	0.9
60～69歳 (n=192)	7.8	0.5	53.1	3.6	43.2	26.0	35.4	1.0	7.3	3.1	4.7	11.5	1.0
70歳以上 (n=247)	1.2	0.4	65.6	7.3	34.8	22.3	38.1	-	-	2.0	4.5	7.7	1.6

助けてくれる人について、年齢別に見ると、20代、30代、40代、50代では、「親」がそれぞれ65.7%、78.0%、66.9%、47.4%で最多でした。また、20代、30代、40代では、「友人」がそれぞれ48.6%、35.4%、37.8%で2位となっており、若い世代ほど、困った時に身近な友人を頼りに対する傾向が相対的に高いと言えます。他方、60代、70歳以上では、「子ども」がそれぞれ53.1%、65.6%で最多となっており、他の世代との違いが見られます。

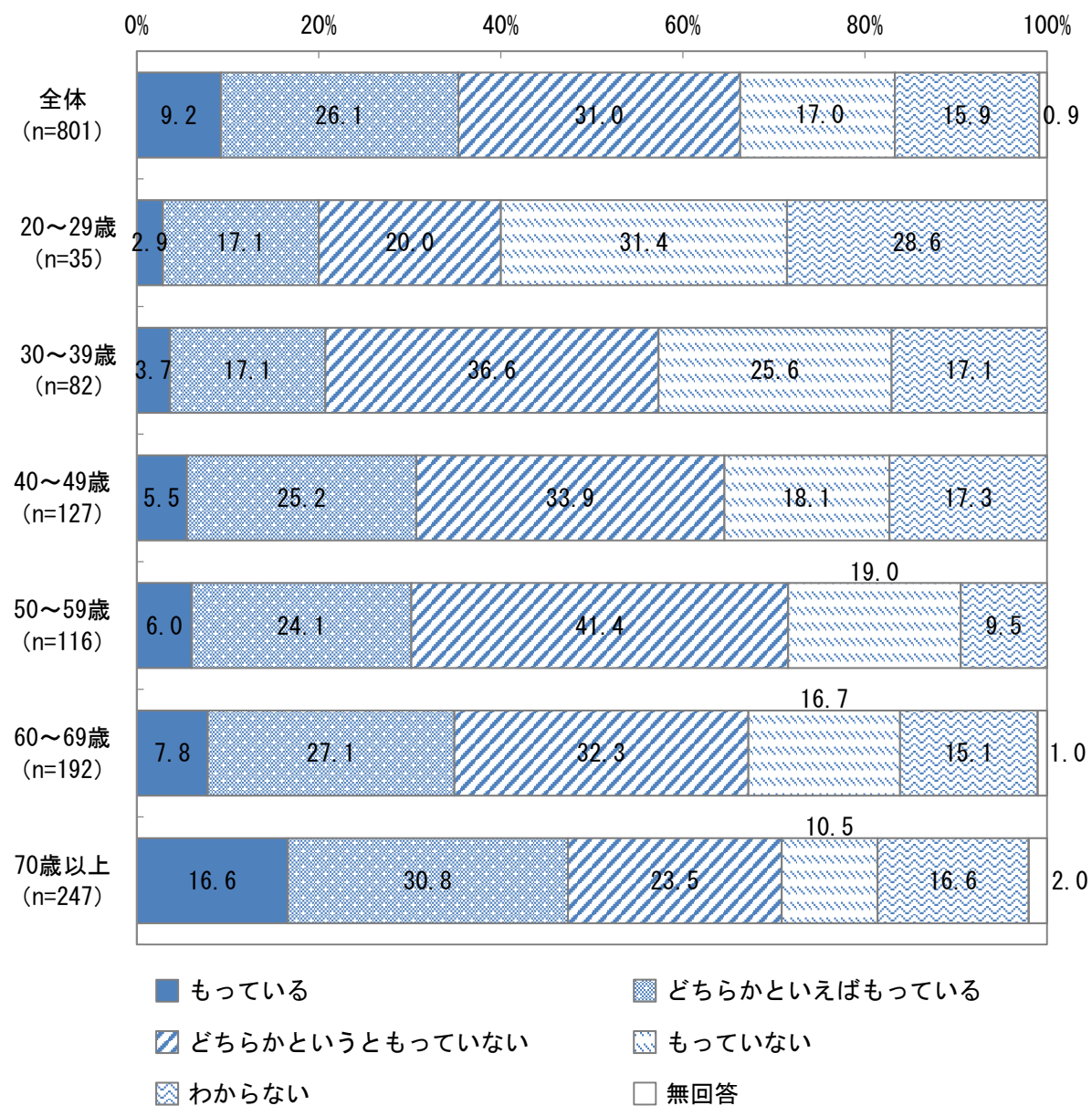


問1 2. 将来への希望 (〇は1つだけ)



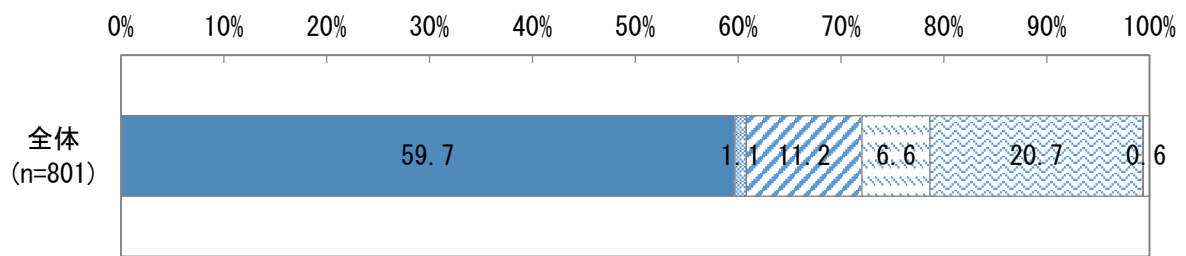
茂原市の将来に対する希望については、「持っている」(9.2%)、「どちらかといえば持っている」(26.1%)を合わせた肯定的な意見が計 35.3%だったのに対し、「もっていない」(17.0%)、「どちらかというともっていない」(31.0%)を合わせた否定的な意見は 48.0%となっています。

〈年齢別〉



茂原市の将来に対する希望について、年齢別に見ると、「もっている」は年代が上がるごとに割合が拡大しており、70代以上（16.6%）が最も多くなっています。また、「もっている」、「どちらかといえばもっている」を合わせた肯定的な意見が最も多いのも70歳以上で、計46.9%でした。一方、20代は計20%で、世代間で大きな開きがあることが分かります。

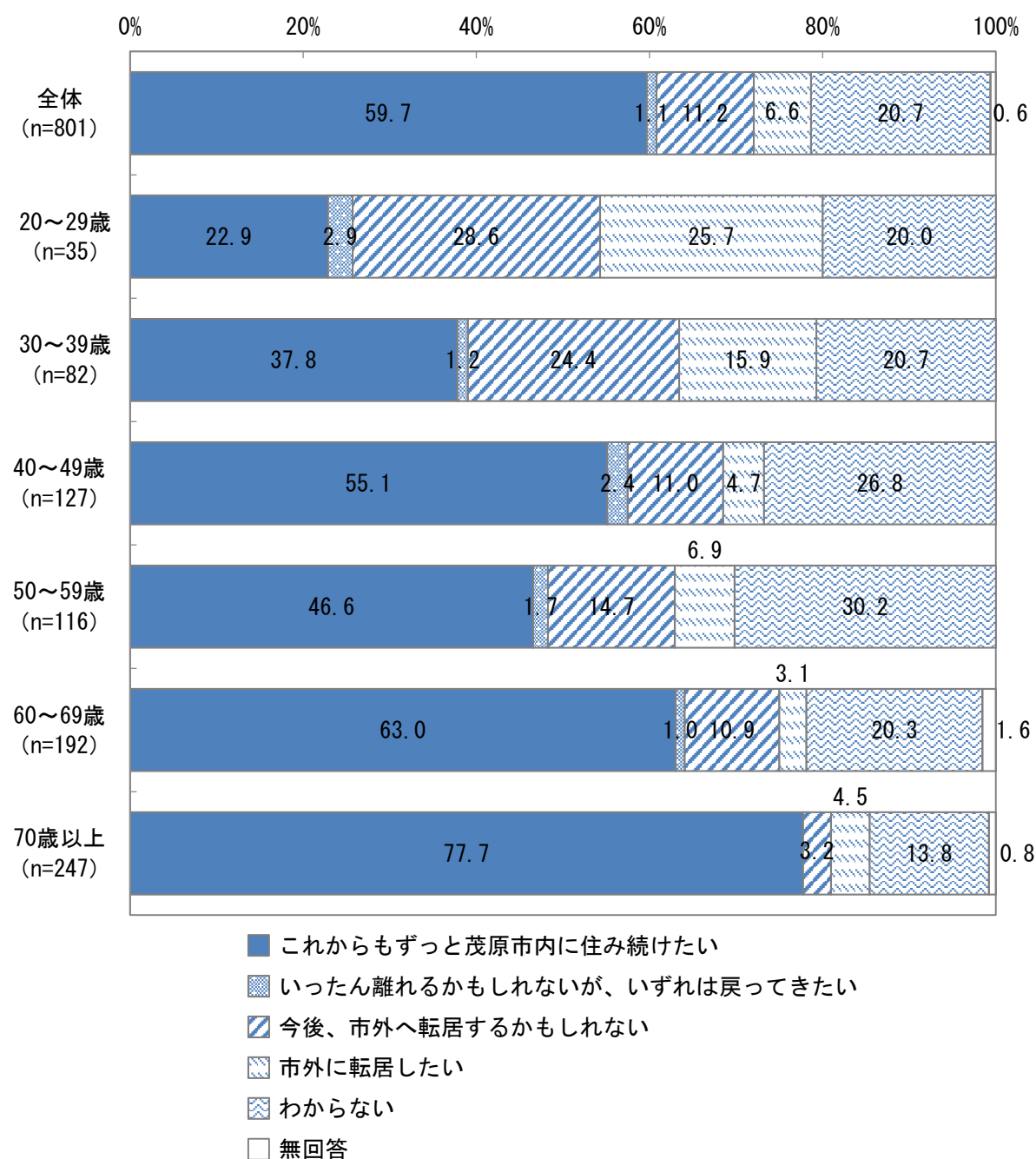
問13. **定住意向** (○は1つだけ)



- これからもずっと茂原市内に住み続けたい
- いったん離れるかもしれないが、いずれは戻ってきたい
- 今後、市外へ転居するかもしれない
- 市外に転居したい
- わからない

茂原市に今後も住み続けたいかについては、「これからもずっと茂原市内に住み続けたい」との回答が最多で、59.7%に上っています。他方、「今後、市外へ転居するかもしれない」(11.2%)と「市外に転居したい」(6.6%)を合わせた、移住を考えている人は計17.8%で約2割となっています。

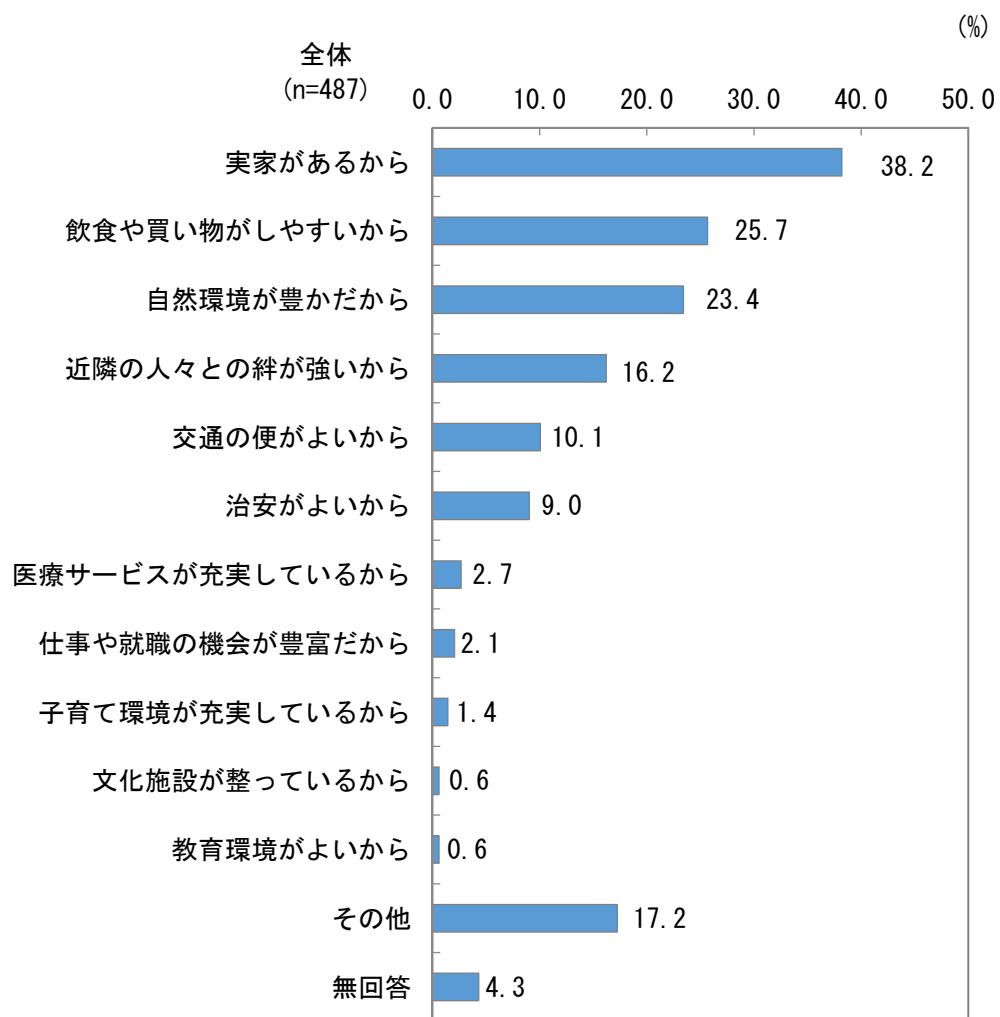
〈年齢別〉



定住意向について、年齢別に見ると、「これからもずっと茂原市内に住み続けたい」としたのは、70歳以上が77.7%で最多でした。「いったん離れるかもしれないが、いずれは戻ってきたい」と合わせた、定住に前向きな回答は、70歳以上(80.9%)、60代(64.0%)、40代(57.5%)、50代(48.3%)、30代(39.0%)、20代(25.8%)の順に多くなっています。

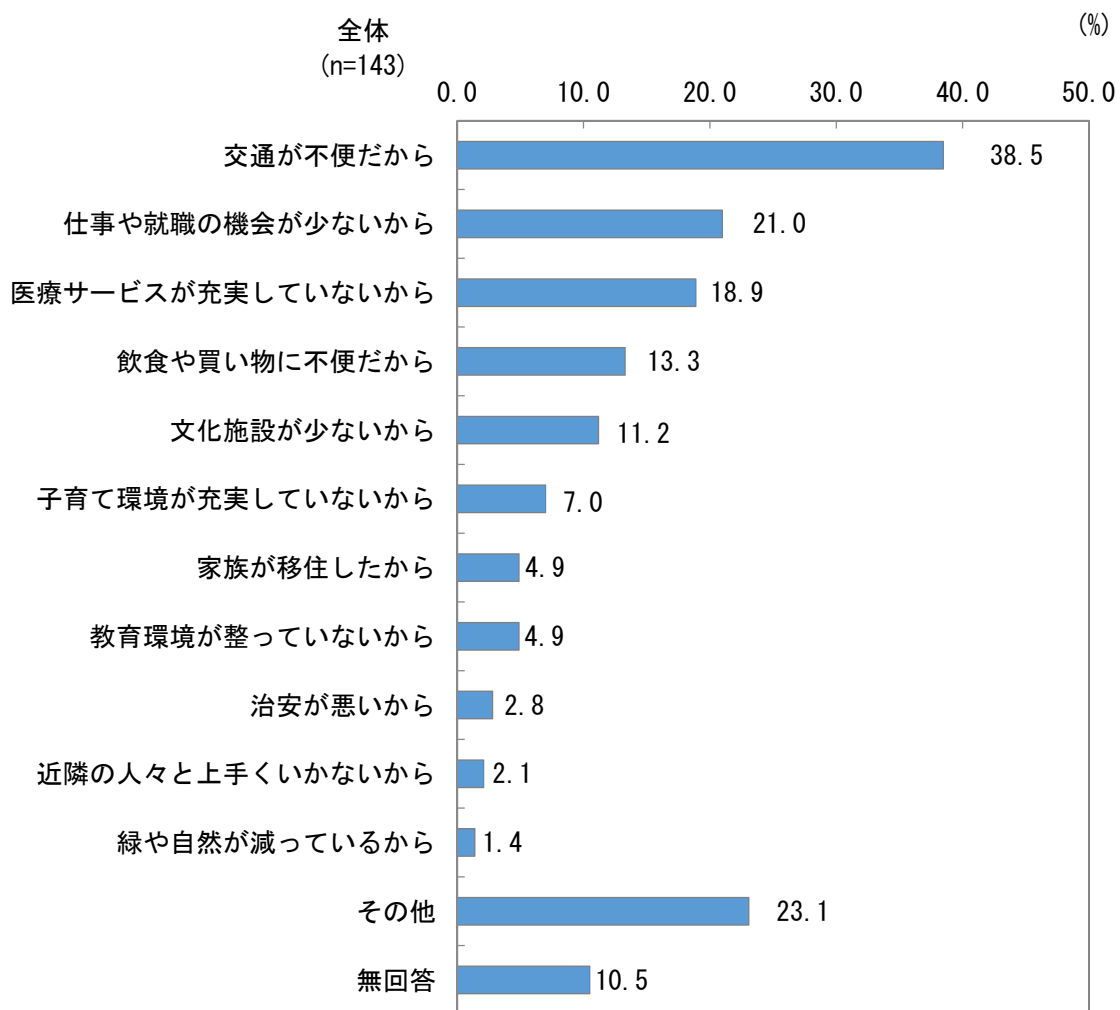
問13で選択肢1、2を選んだ場合のみ回答

問13-1. 住み続けたい理由 (〇は2つまで)



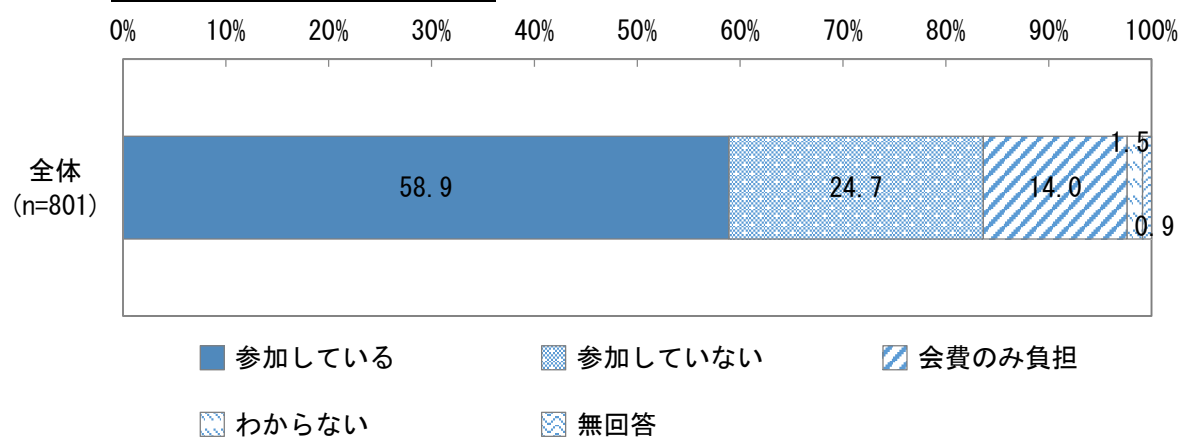
茂原市に住み続けたい理由については、「実家があるから」(38.2%)が突出し、「飲食や買い物がしやすいから」(25.7%)「自然環境が豊かだから」(23.4%)「近隣の人々との絆が強いから」(16.2%)が続いています。そのほかの回答は分散しており、全体として、飲食や買い物のしやすさを除けば、インフラを基軸とした生活の利便性よりも、人間関係や自然環境など、心穏やかな暮らしにつながる価値が重視されていると考えられます。

問13で選択肢3、4を選んだ場合のみ回答  
 問13-2. 移住したい理由 (〇は2つまで)



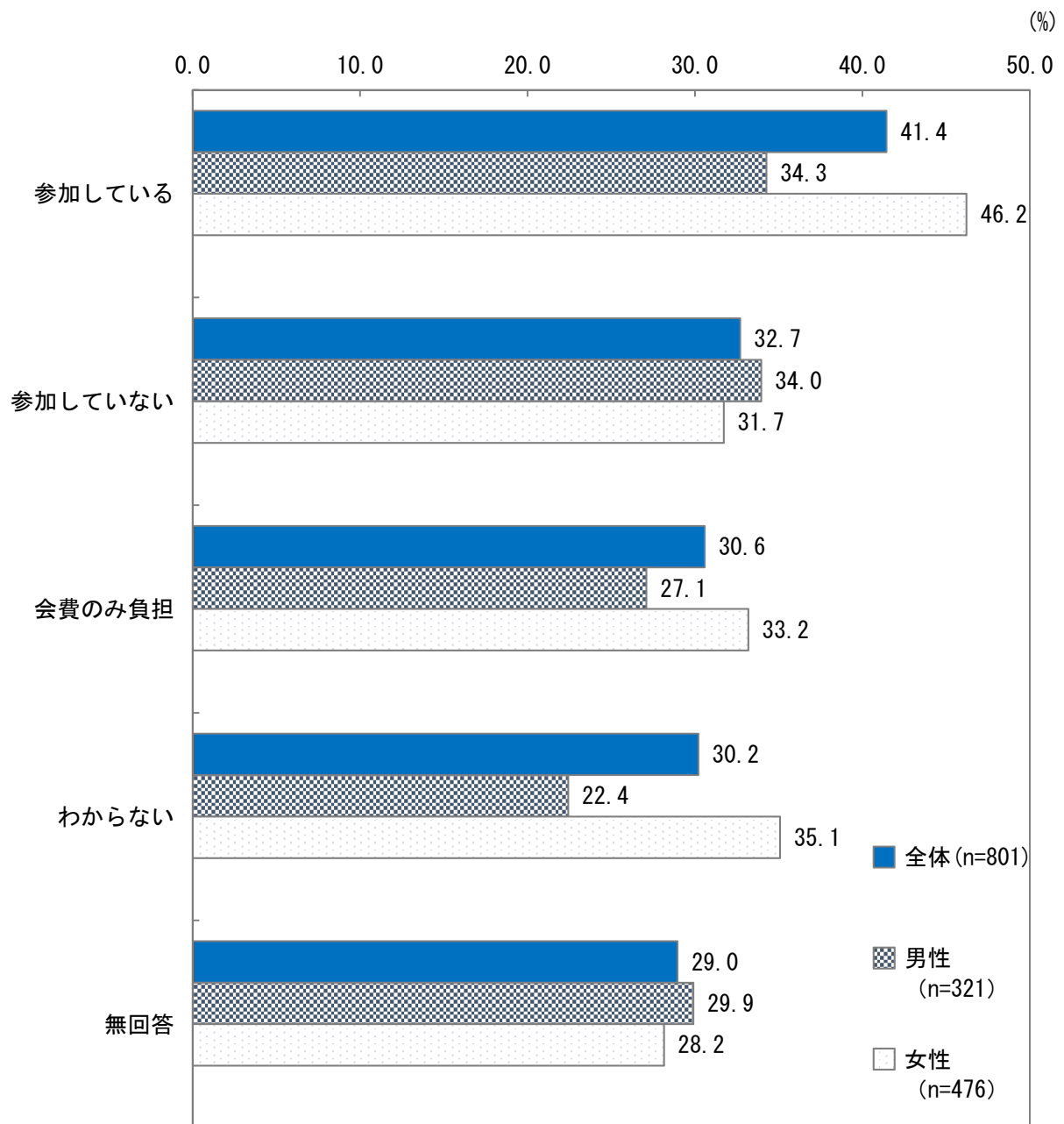
茂原市から移住したい理由については、「交通が不便だから」(38.5%)が突出しているほか、「仕事や就職の機会が少ないから」(21.0%)が20%を超えています。このほか、「医療サービスが充実していないから」(18.9%)「飲食や買い物に不便だから」(13.3%)「文化施設が少ないから」(11.2%)などが続き、前述の住み続けたい理由と対照的に、生活利便性の低さを否定的に捉える意見が目立ちます。

問14. **自治会や町内会活動への参加** (○は1つだけ)



自治会や町内会の活動への参加状況については、「参加している」との回答が最多で、58.9%に上っています。また、「会費のみ負担」も14.0%で、計72.9%の回答者が何らかの形で自治会や町内会の活動に関わっていることが分かります。

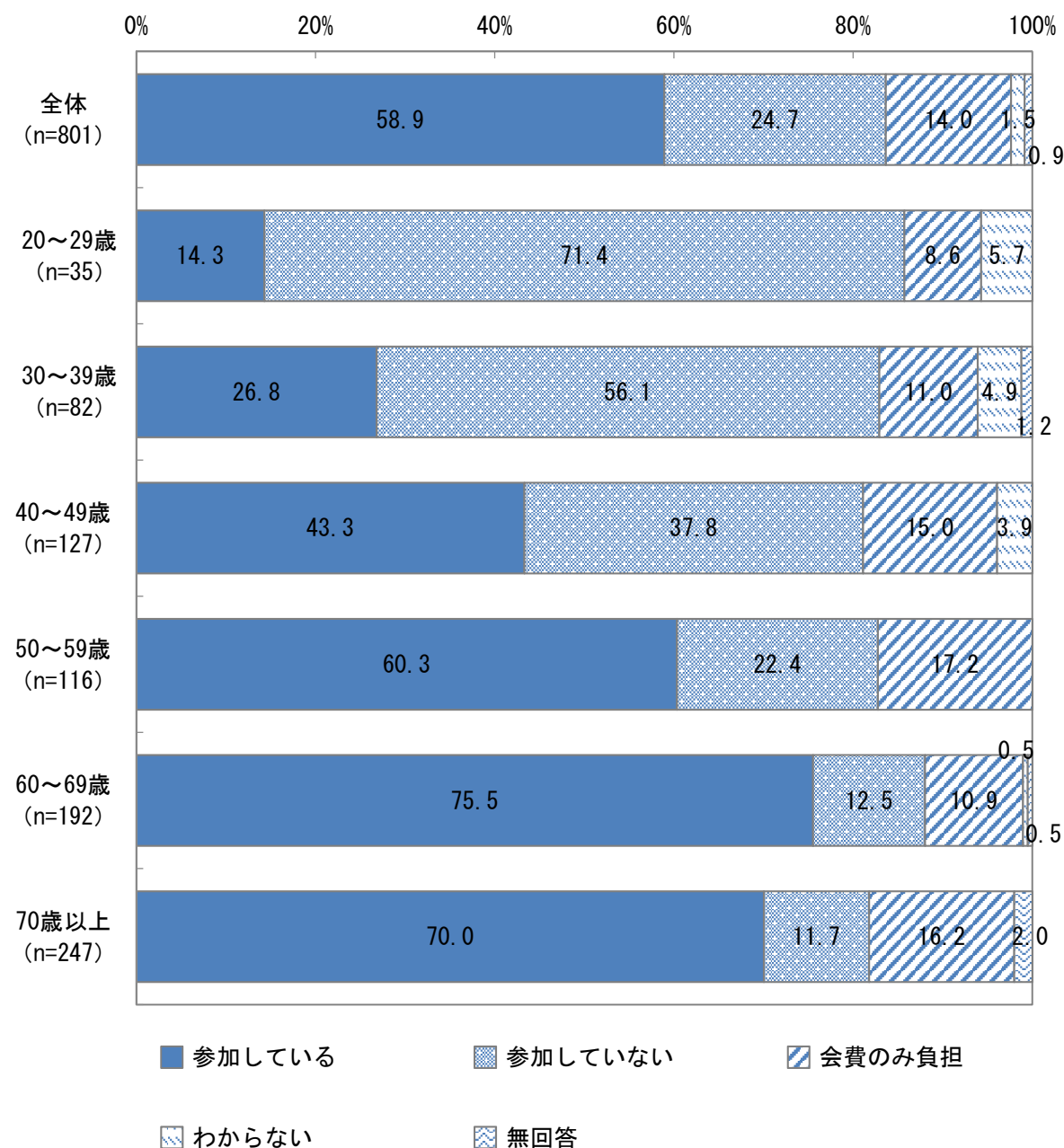
〈性別〉



自治会や町内会の活動への参加状況について、性別に見ると、「参加している」としたのは女性が46.2%で、男性の34.3%を10ポイント以上上回っており、女性の方が地縁型コミュニティにおける活動が活発であることが分かります。

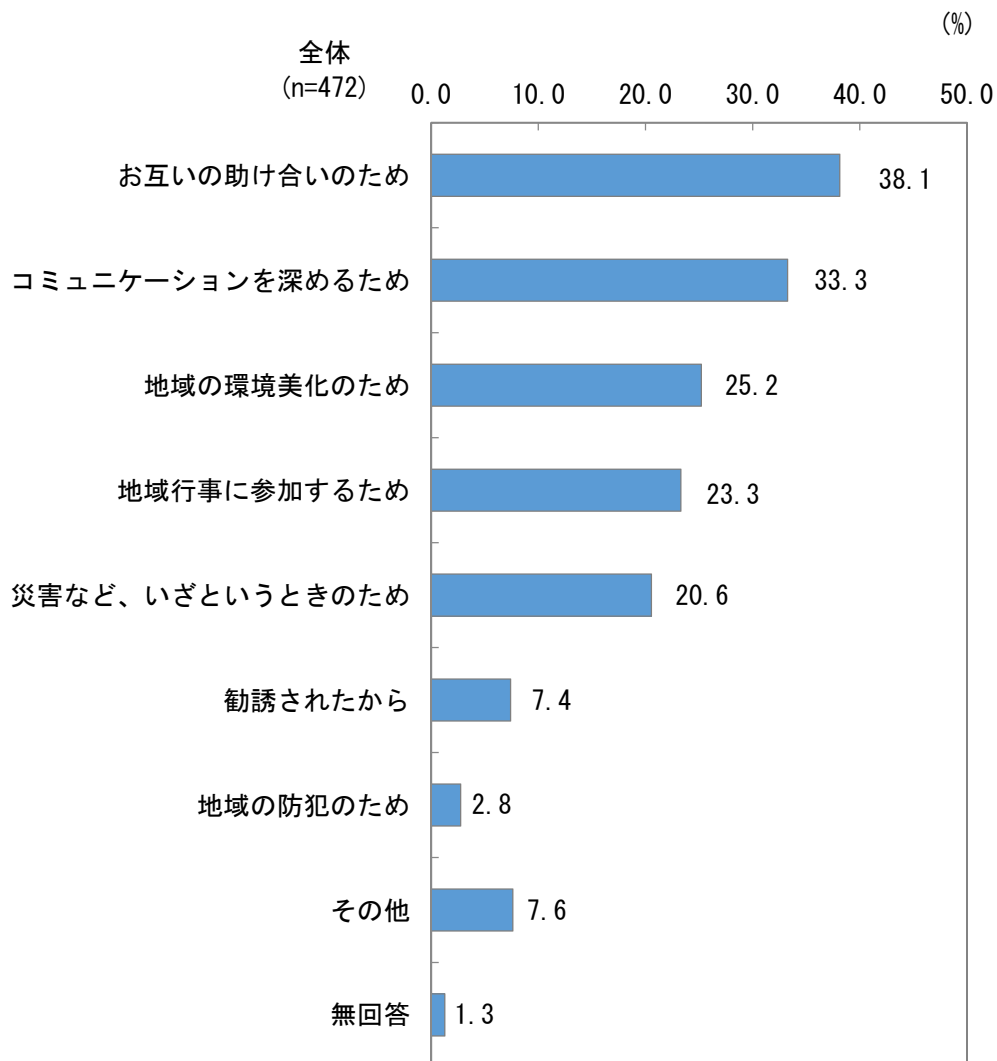


〈年齢別〉



自治会や町内会の活動への参加状況について、年齢別に見ると、「参加している」としたのは、60代が75.5%で最多で、おおむね年代が上がるごとに割合が高まる傾向にあります。他方、「会費のみ負担」とした回答は、最多の50代（17.2%）最少の20代（8.6%）の差が10ポイント未満であり、年代間で大きな違いは見られませんでした。

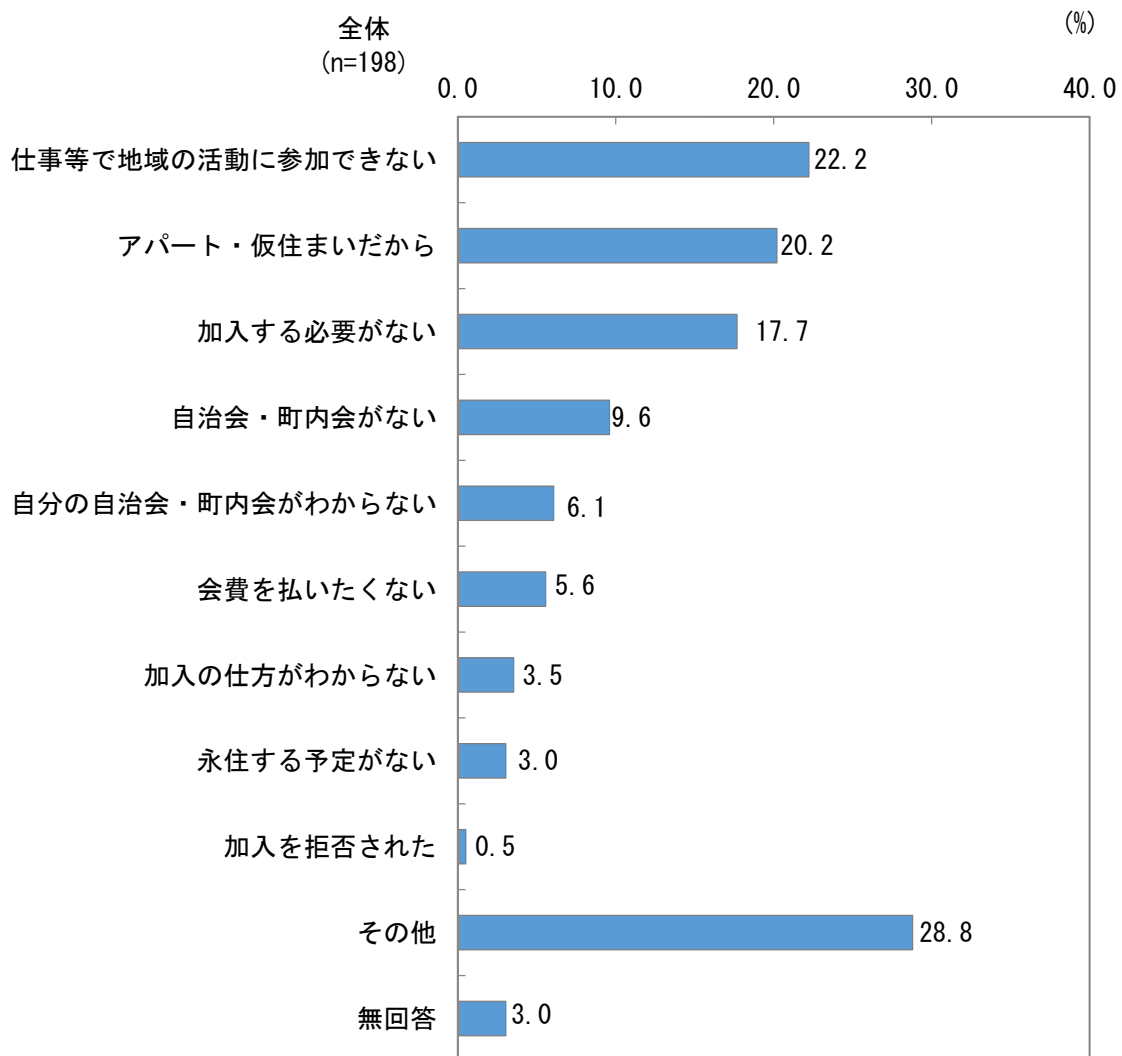
問14で選択肢1を選んだ場合のみ回答  
 問14-1. 参加した理由 (〇は2つまで)



自治会や町内会の活動に参加した理由については、「お互いの助け合いのため」(38.1%)「コミュニケーションを深めるため」(33.3%)が共に30%を超えており、地域の緊密な関係性を柱とした互助が活動の動機になっていることがうかがえます。また、「地域の環境美化のため」(25.2%)「地域行事に参加するため」(23.3%)「災害など、いざという時のため」(20.6%)もそれぞれ20%を超えています。

問14で選択肢2を選んだ場合のみ回答

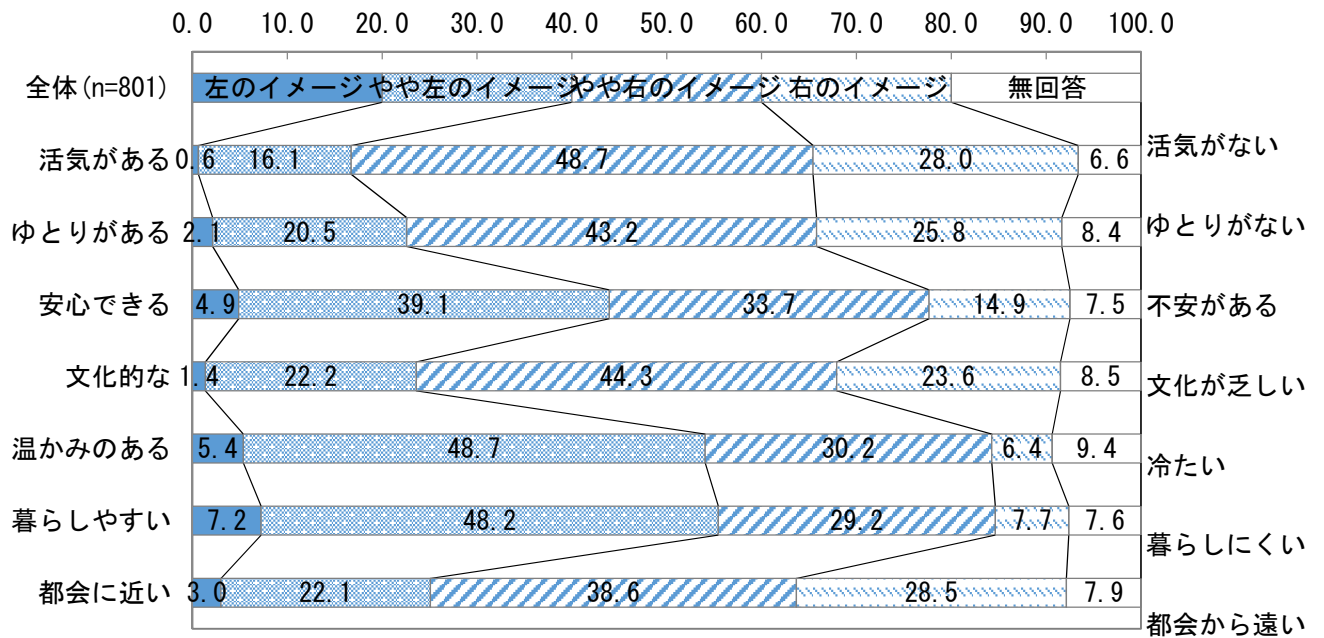
問14-2. 参加していない理由 (○は2つまで)



自治会や町内会の活動に参加していない理由については、「仕事等で地域の活動に参加できない」(22.2%)「アパート・仮住まいだから」(20.2%)がそれぞれ20%を超えています。参加したくてもできない人が一定数いることが分かるほか、地域に定住する見通しが無い人が参加に積極的でない可能性がうかがえます。

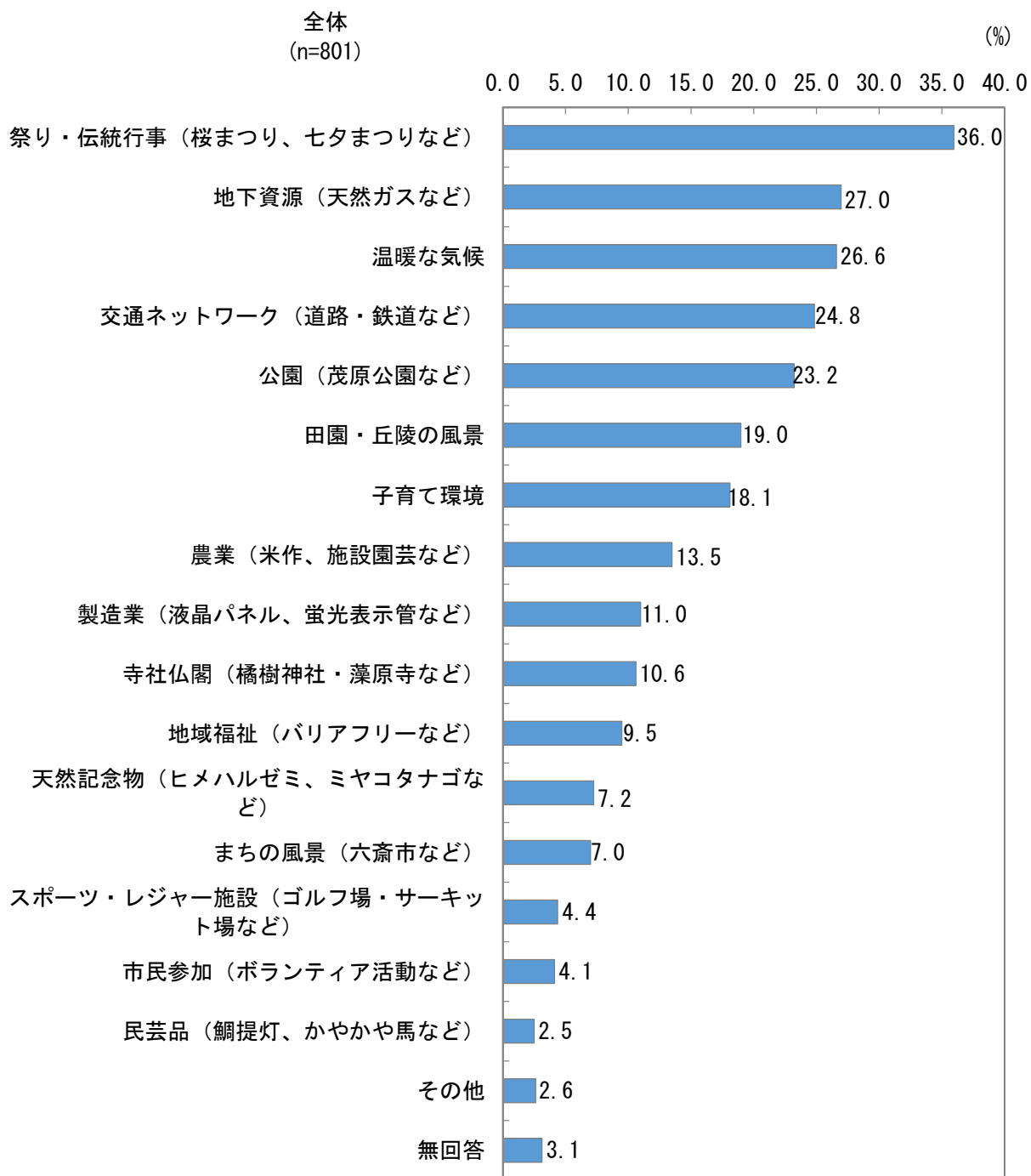
### 3. 茂原市のイメージについて

問15. 茂原市のイメージ (それぞれの項目につき、○は1つだけ) (%)



茂原市のイメージに関しては、「温かみのある」、「暮らしやすい」といった肯定的なイメージがそれぞれ計 54.1%、55.4%と、半数を上回っています。他方、「活気がない」、「ゆとりがない」、「文化が乏しい」「都会から遠い」といった否定的なイメージがそれぞれ計 76.7%、69.0%、67.9%、67.1%を占めており、都市的なイメージは弱いと考えられます。

問16. 大切にしたい地域の財産 (〇は3つまで)



大切にしたい地域の財産については、「祭り・伝統行事」が 36.0%で最多となっています。また、「地下資源」(27.0%)、「温暖な気候」(26.6%)「交通ネットワーク」(24.8%)「公園」(23.2%) もそれぞれ 20%を超えているほか、「田園・丘陵の風景」(19.0%) や「子育て環境」(18.1%) も 20%近くとなっています。地域に根付いた伝統文化のほか、市の産業を支える地下資源、豊かな自然と共にある暮らしやすい生活環境などが地域資源と捉えられています。

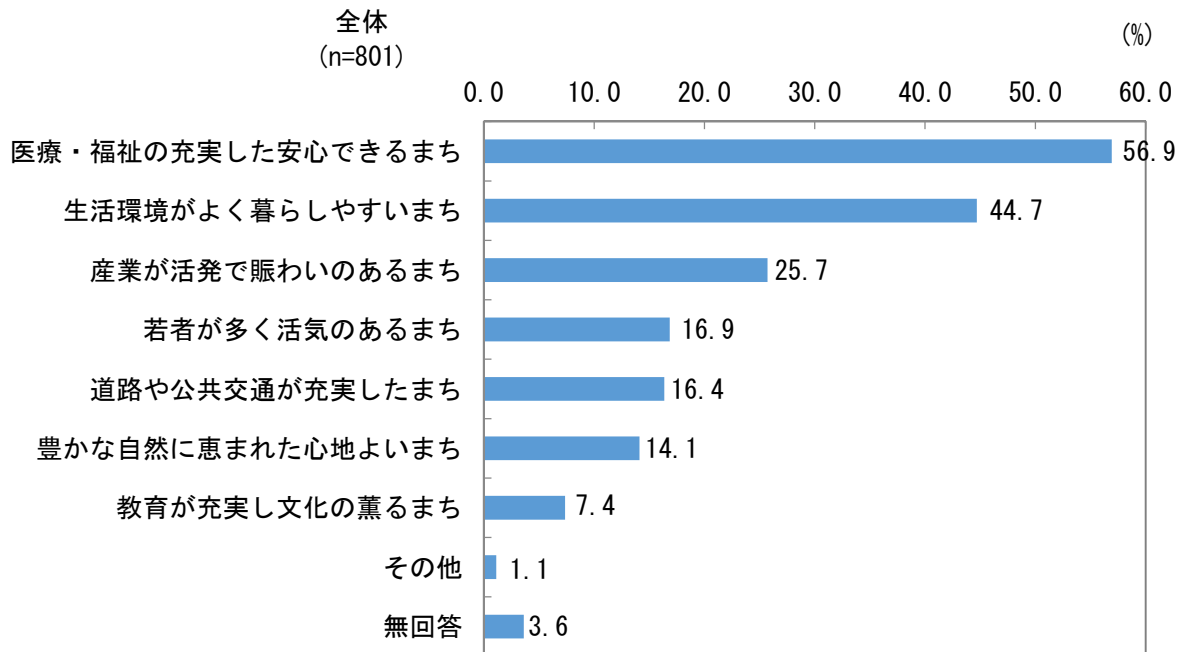
〈年齢別〉 ※網掛けは濃～淡の順に上位3位を表す

	温暖な気候	田園・丘陵の風景	まちの風景 (六斎市など)	天然記念物 (メハルゼミ、ミヤコタナゴなど)	民芸品 (鯛提灯、かやかや馬など)	寺社仏閣 (檜樹神社・藻原寺など)	祭り・伝統行事 (榎まつり、七夕まつりなど)	地下資源 (天然ガスなど)	製造業 (液晶パネル、蛍光表示管など)	農業 (采作、施設園芸など)	公園 (茂原公園など)	スポーツ・レジャー施設 (ゴルフ場・サーキット場など)	交通ネットワーク (道路・鉄道など)	子育て環境
全体 (n=801)	26.6	19.0	7.0	7.2	2.5	10.6	36.0	27.0	11.0	13.5	23.2	4.4	24.8	18.1
20～29歳 (n=35)	8.6	11.4	5.7	8.6	2.9	11.4	60.0	14.3	2.9	8.6	31.4	11.4	28.6	34.3
30～39歳 (n=82)	9.8	14.6	3.7	9.8	3.7	9.8	51.2	18.3	12.2	9.8	35.4	4.9	22.0	34.1
40～49歳 (n=127)	14.2	15.7	6.3	7.1	1.6	11.8	55.9	26.0	11.0	10.2	30.7	3.9	26.8	25.2
50～59歳 (n=116)	17.2	21.6	11.2	11.2	4.3	12.9	27.6	27.6	15.5	13.8	19.0	0.9	24.1	16.4
60～69歳 (n=192)	27.6	24.0	7.8	6.3	2.1	9.9	25.5	25.5	9.9	18.2	19.8	5.2	29.2	16.1
70歳以上 (n=247)	44.9	17.8	6.1	5.3	2.0	9.7	29.1	33.2	10.5	13.4	18.6	4.5	21.5	9.3

	地域福祉 など (ハリアフリー)	市民参加 活動など (ボランティア)	その他	無回答
全体 (n=801)	9.5	4.1	2.6	3.1
20～29歳 (n=35)	5.7	-	-	2.9
30～39歳 (n=82)	6.1	2.4	3.7	2.4
40～49歳 (n=127)	11.8	1.6	0.8	2.4
50～59歳 (n=116)	15.5	4.3	4.3	0.9
60～69歳 (n=192)	9.4	6.3	3.6	4.2
70歳以上 (n=247)	7.3	4.9	2.0	4.0

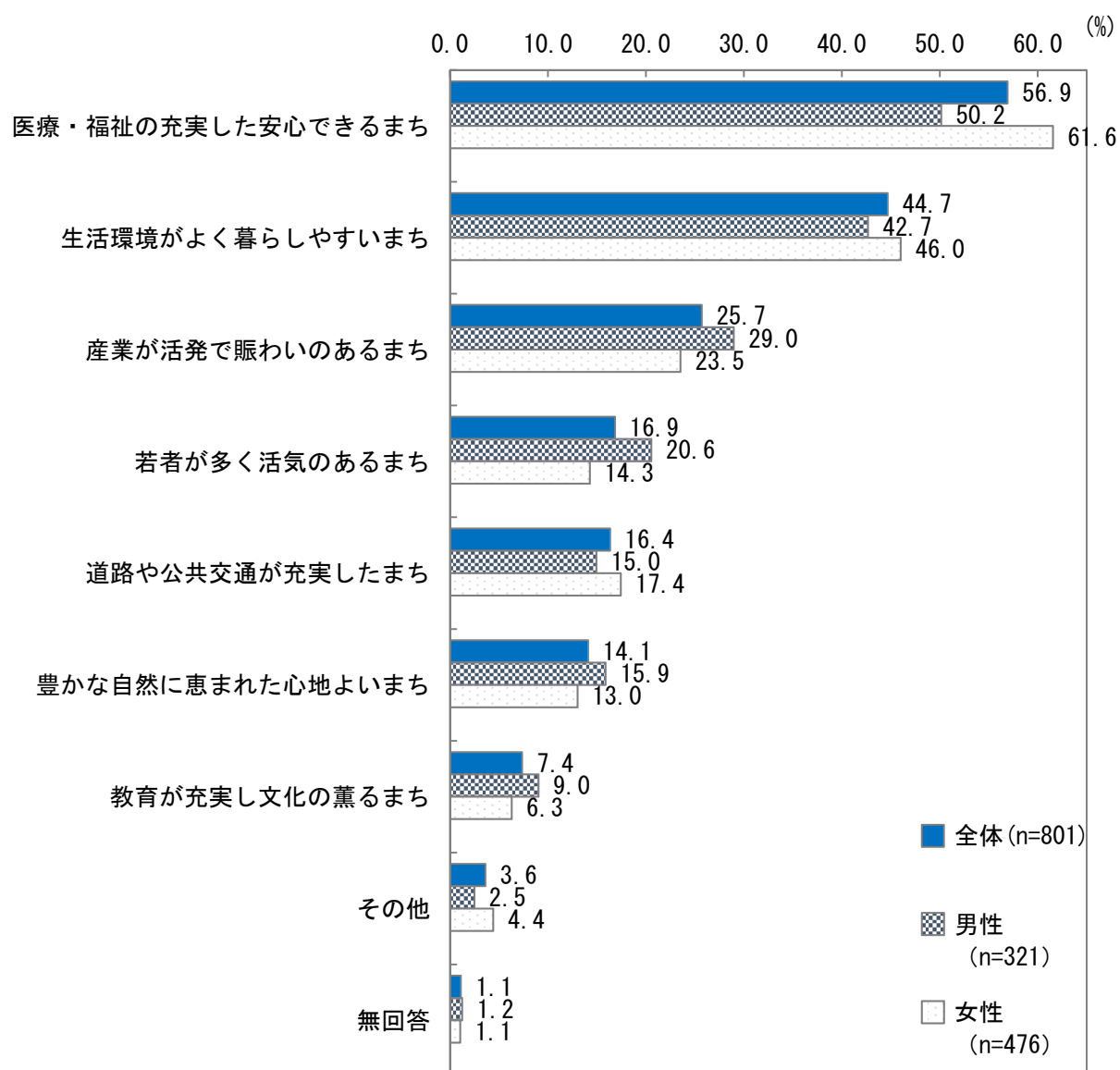
大切にしたい地域の財産について、年齢別に見ると、20代から50代までで「祭り・伝統行事」がそれぞれ60.0%、51.2%、55.9%、27.6%で最多となっています。また、30代、40代では「公園」がそれぞれ35.4%、30.7%で第2位となっており、子育て世代にとっては、子どもの遊び場となる公園が重要な資源として認識されている可能性があります。このほか、「温暖な気候」が60代(27.6%)で第2位、70歳以上(44.9%)では最多となっています。

問17. 10年後の茂原市 (〇は2つまで)



10年後、茂原市がどのようなまちであってほしいかについては、「医療・福祉の充実した安心できるまち」(56.9%)と「生活環境がよく暮らしやすいまち」(44.7%)が突出しています。住みよい環境における健康で安全安心な暮らしが求められています。

〈性別〉



10年後、茂原市がどのようなまちであってほしいかについて、性別に見ると、女性は「医療・福祉の充実した安心できるまち」が61.6%で、男性（50.2%）を10ポイント以上上回っています。また、「産業が活発で賑わいのあるまち」については、男性（29.0%）が女性（23.5）を上回っています。このほかの選択肢については、男女で大きな差は見られませんでした。

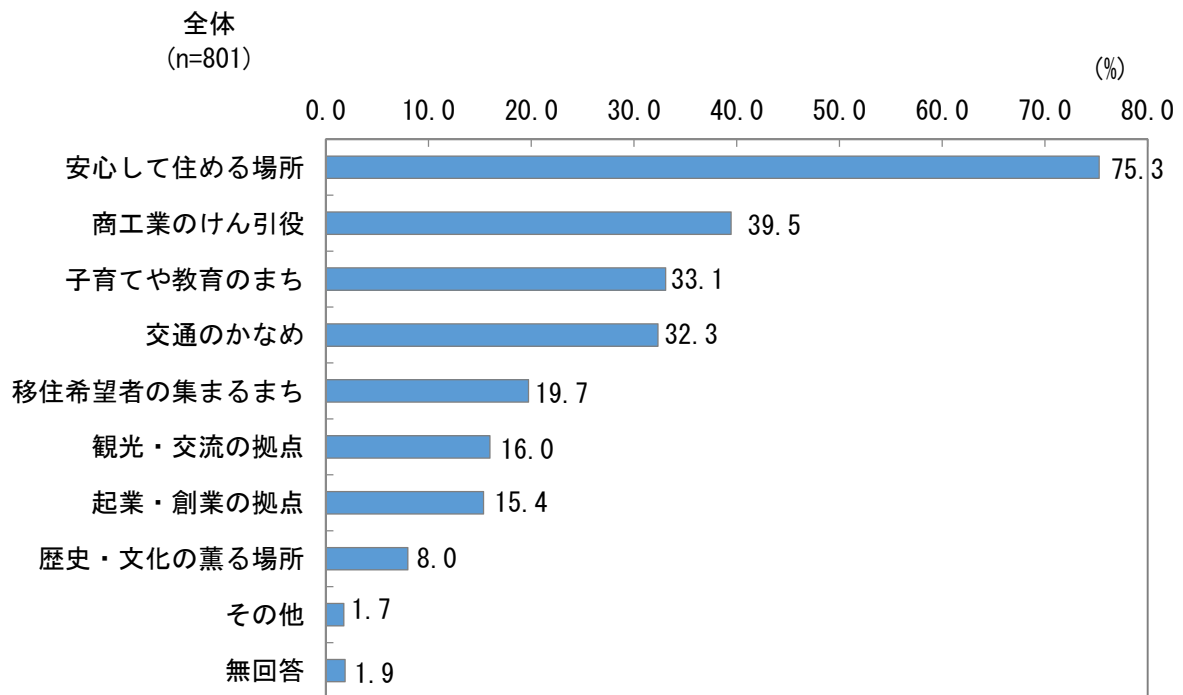


〈年齢別〉

	産業が活発で賑わいのあるまち	豊かな自然に恵まれた心地よいまち	生活環境がよく暮らしやすいまち	医療・福祉の充実した安心できるまち	教育が充実し文化の薫るまち	道路や公共交通が充実したまち	若者が多く活気のあるまち	その他	無回答
全体 (n=801)	25.7	14.1	44.7	56.9	7.4	16.4	16.9	1.1	3.6
20～29歳 (n=35)	8.6	8.6	45.7	34.3	22.9	28.6	22.9	-	8.6
30～39歳 (n=82)	23.2	13.4	53.7	39.0	13.4	17.1	15.9	4.9	3.7
40～49歳 (n=127)	22.8	15.0	52.0	57.5	5.5	16.5	14.2	0.8	3.1
50～59歳 (n=116)	26.7	14.7	44.8	53.4	9.5	17.2	13.8	1.7	3.4
60～69歳 (n=192)	27.6	18.8	42.7	63.0	4.2	14.1	18.8	-	2.6
70歳以上 (n=247)	28.7	10.9	39.3	62.8	5.7	15.8	17.4	0.8	4.0

10年後、茂原市がどのようなまちであってほしいかについて、年齢別に見ると、20代と30代では「生活環境がよく暮らしやすいまち」がそれぞれ45.7%、53.7%で最多となります。一方、40代以上では「医療・福祉の充実した安心できるまち」が最多となっており、若年層との違いが見られます。

問18. 長生地域で果たす役割 (〇は3つまで)



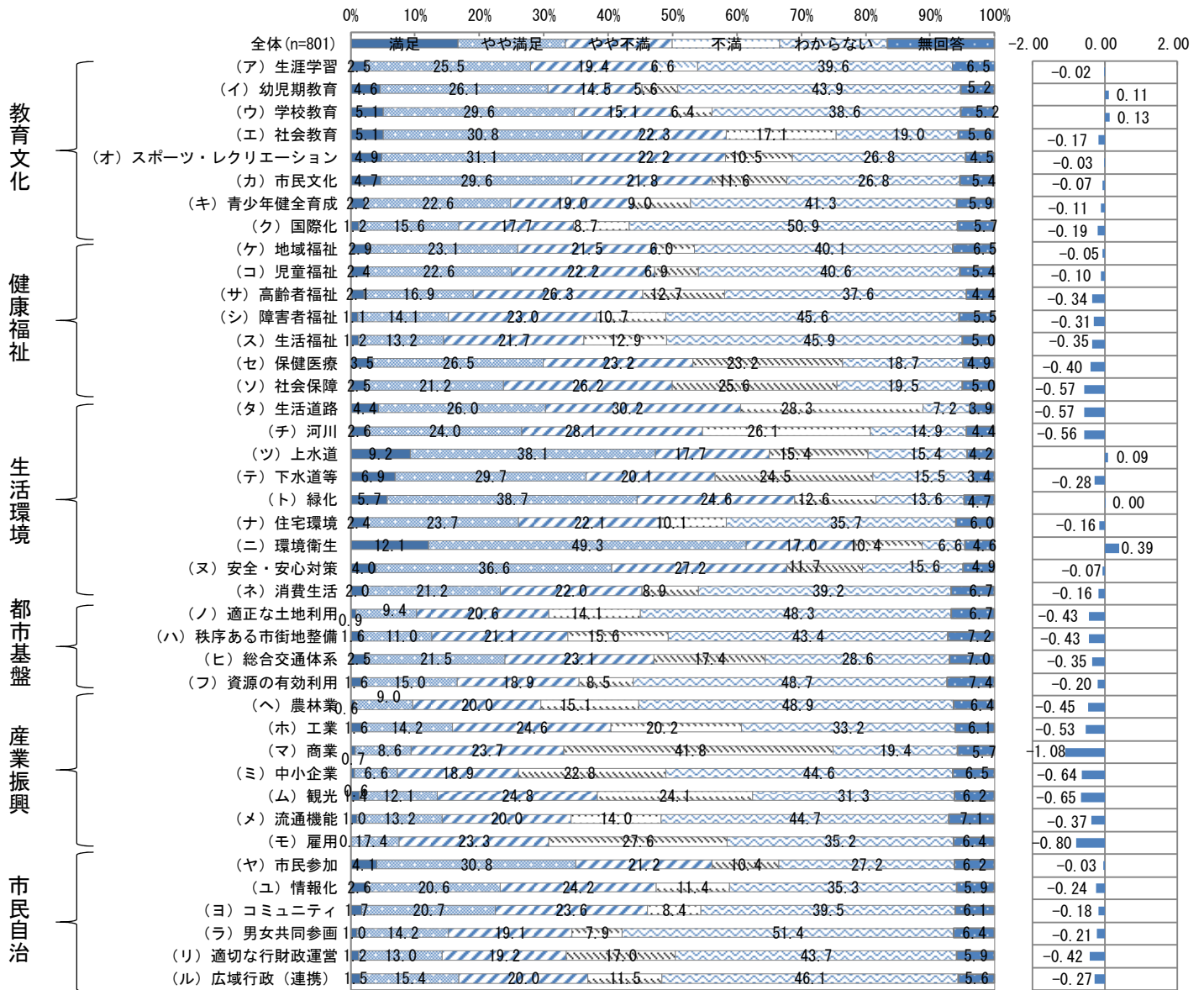
茂原市が長生地域で果たす役割については、「安心して住める場所」が75.3%で突出しています。次いで「商工業のけん引役」(39.5%)、「子育てや教育のまち」(33.1%)、「交通のかなめ」(32.3%)などとなっており、力強い商工業や交通インフラの集積を柱としたまちの活力を基盤としつつ、長生地域の中で、安全・安心な暮らしが実現できる場所となっていくことが期待されています。

# 4. 茂原市のまちづくりについて

## これからの市に必要な施策

問19. 施策の満足度 (それぞれの項目につき、○は1つだけ)

〈評価点〉



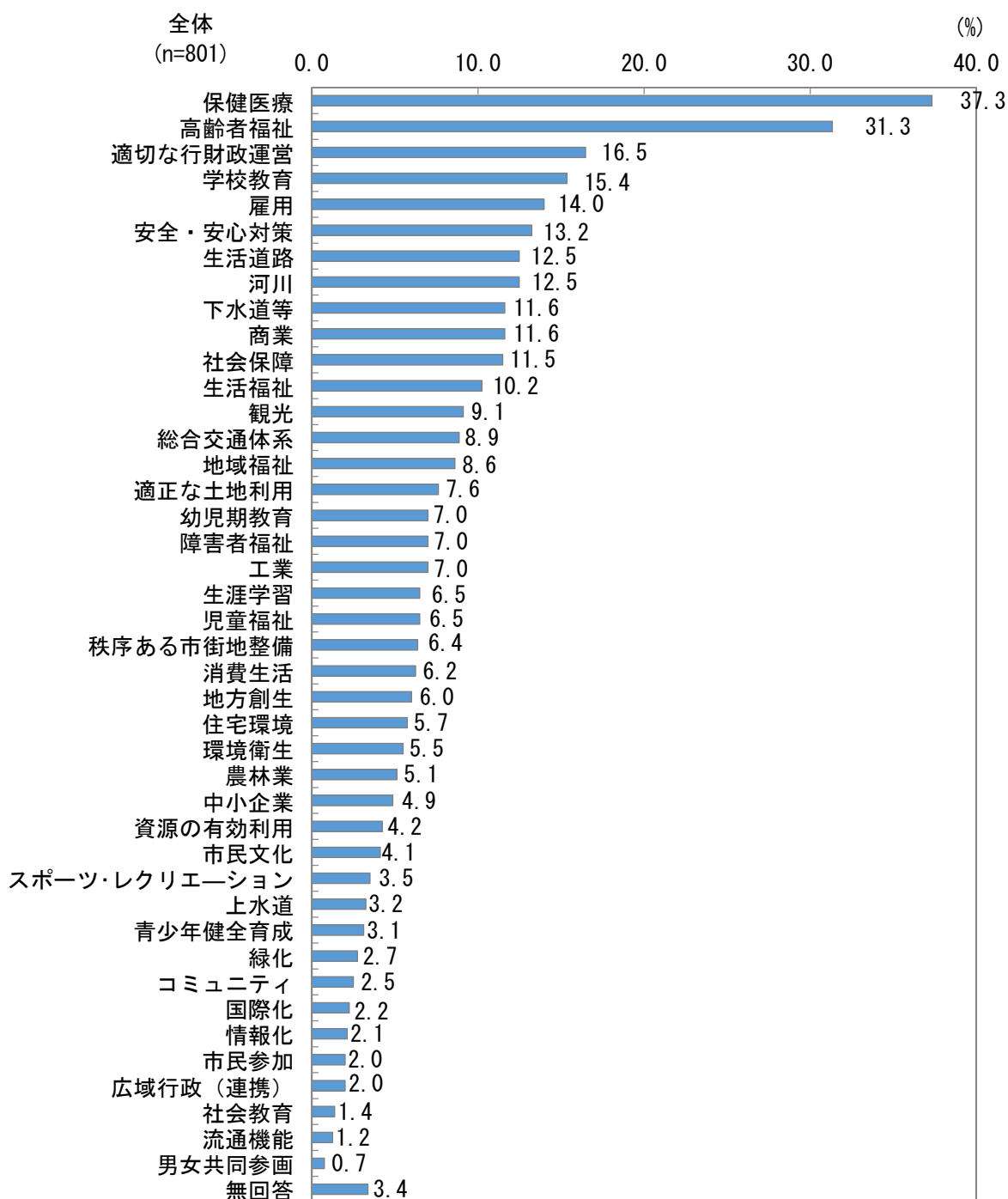
《集計方法とグラフの見方》

各施策の重要度につき、結果を分かりやすく示すために、加重平均による分析で評価点を算出しました。各施策について、「重要・やや重要・普通・あまり重要ではない・重要でない」の回答数に、それぞれ「2・1・0・-1・-2」点を与え、その合計数を全回答数（「無回答」を除く）で除して評価点としました。

したがって、加重平均値が高いほど、その項目に対する評価が高いとみることができます。

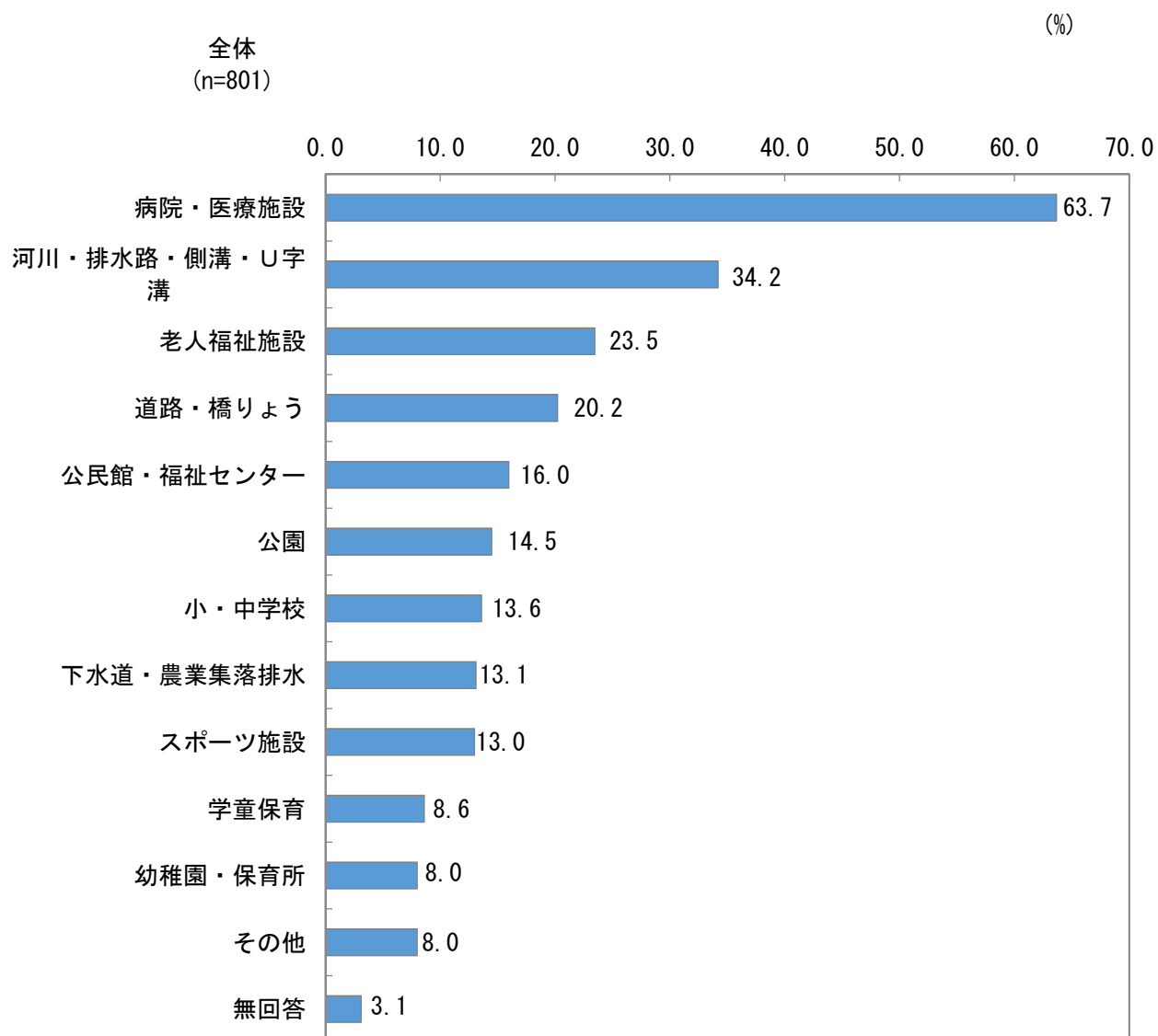
各施策の満足度については、各項目で「わからない」との回答が多くなっており、約半数を占めるものもあります。分野ごとに見ると、「教育文化」は「(イ) 幼児期教育」「(ウ) 学校教育」に対する評価点がそれぞれ 0.11、0.13 でプラスになるなど、比較的高い評価となっています。「(サ) 高齢者福祉」(-0.34) や「(ソ) 社会保障」(-0.57) などを含む「健康福祉」に関しては、市のみならず、国や県が実施する施策も多数あることから、今回の結果が単純に市の取組のみに対する評価とは言い切れませんが、おおむねマイナスとなっており、わが国全体を覆う経済的な先行きへの不安を反映した可能性があります。また、市民の身の回りと関連の深い「生活環境」は「(ツ) 上水道」(0.09) や「(ニ) 環境衛生」(0.39) がプラスとなるなど、比較的満足度が高くなっています。このほか、特に「産業振興」について、「(マ) 商業」の評価点が-1.08、「(モ) 雇用」の評価点が-0.80 となるなど、マイナス幅が大きくなっており、市内経済の振興に対する市民の強い要望がうかがえます。

問20. 今後力を入れてほしい分野 (〇は4つまで)



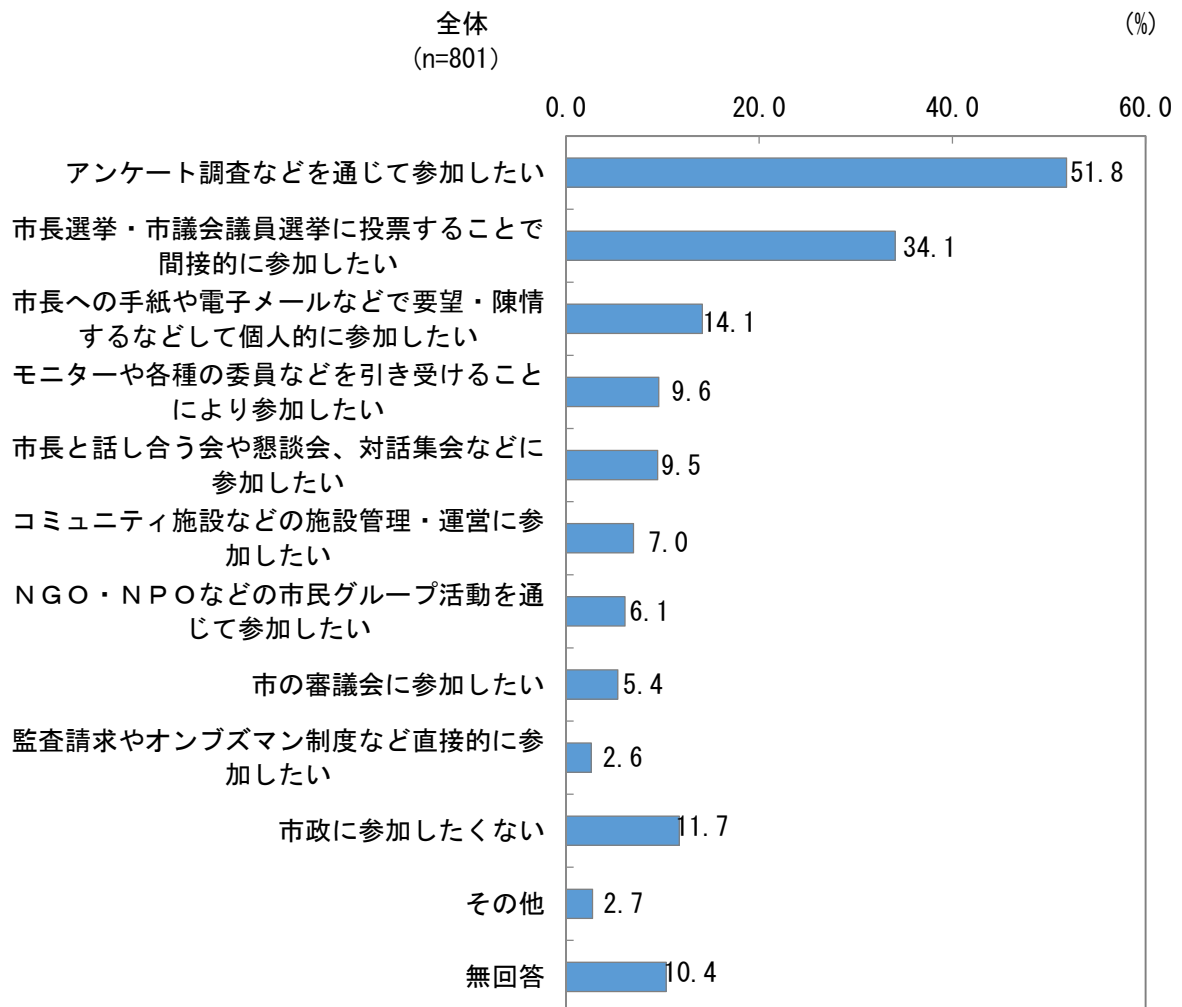
今後、茂原市にもっと力を注いでもらいたい分野については、「保健医療」(37.3%)と「高齢者福祉」(31.3%)が共に30%を超え、突出しています。このほか、「適切な行財政運営」(16.5%)「学校教育」(15.4%)「雇用」(14.0%)「安全・安心対策」(13.2%)など、市民の暮らしに直結する施策分野に関する高い期待が表れています。

問21. **充実してほしい施設・サービス** (〇は3つまで)



もっと充実してほしい施設やサービスについては、「病院・医療施設」が 63.7%と突出しています。次いで「下線・排水路・側溝・U字溝」(34.2%)「老人福祉施設」(23.5%)「道路・橋りょう」(20.2%) などとなっており、高齢期の安心を支える施設や身近な生活に直結したインフラの充実に対する期待がうかがえます。

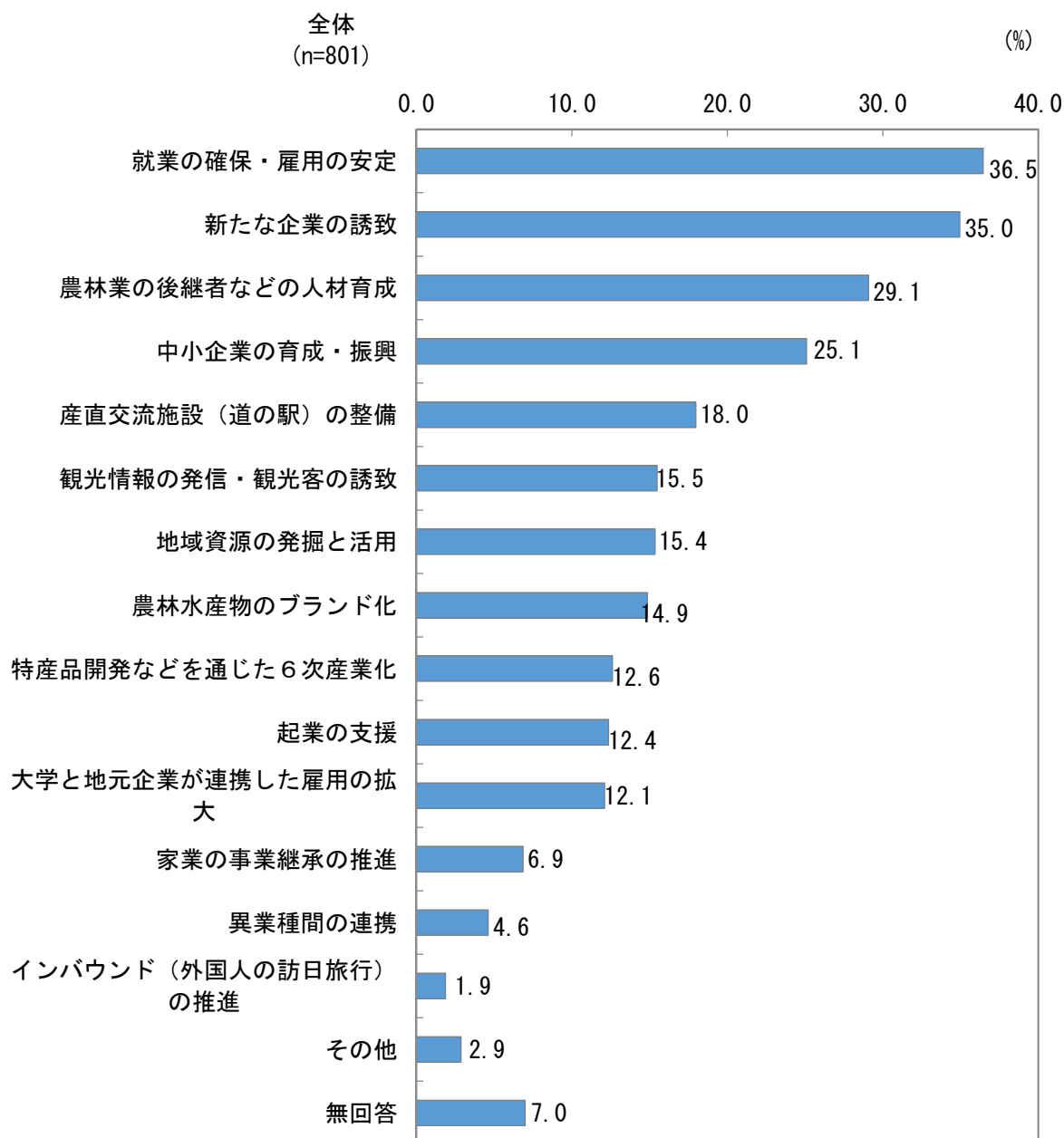
問2.2. 市政への参加方法 (〇は3つまで)



市政への参加方法については、「アンケート調査などを通じて参加したい」が51.8%で突出しているほか、「市長選挙・市議会議員選挙に投票することで間接的に参加したい」(34.1%)も30%を超えています。このほかの回答は分散しています。

## 産業が力強く成長するまち、市民の活力と賑わいにあふれるまち

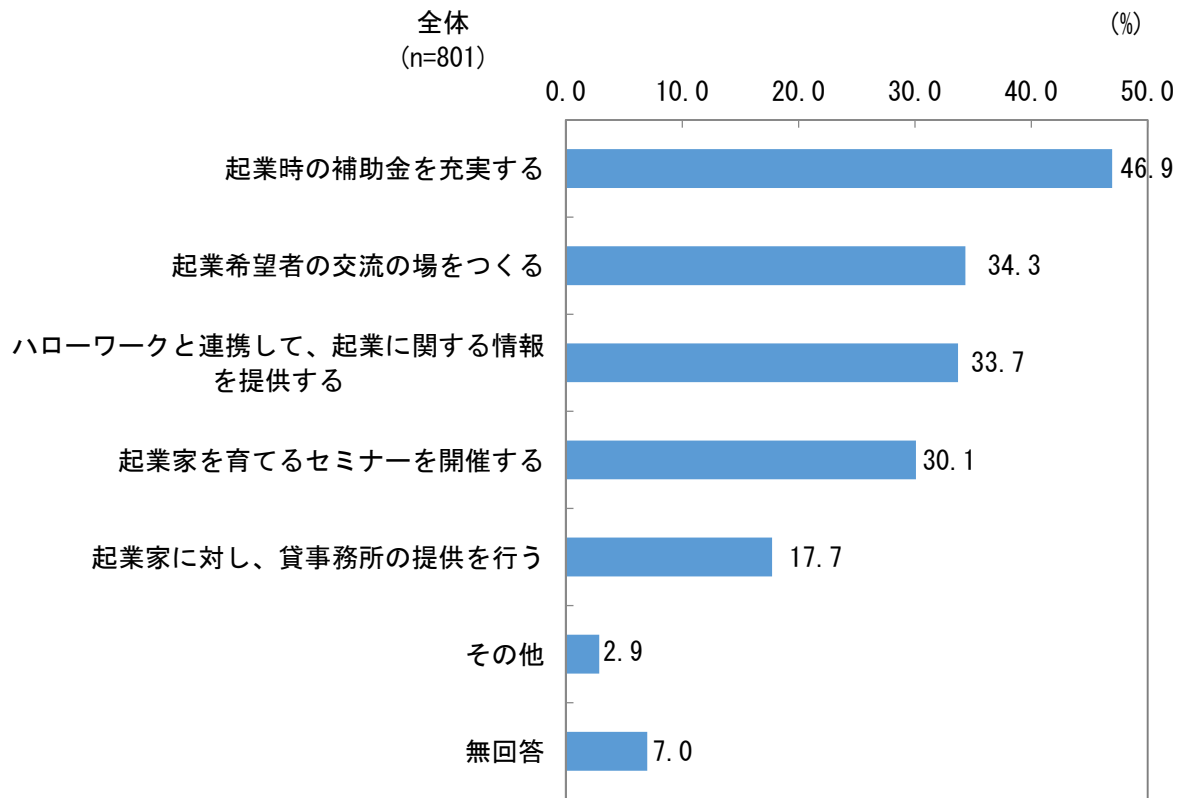
問23. **産業振興**（〇は3つまで）



茂原市の産業振興に向けては、「就業の確保・雇用の安定」（36.5%）「新たな企業の誘致」（35.0%）が共に30%を超えています。また、「農林業の後継者などの人材育成」（29.1%）「中小企業の育成・振興」（25.1%）もそれぞれ20%を超えています。企業誘致や市内中小企業の支援などを通じ、安定した就業を確保するほか、全国的な課題である農業の担い手の育成が期待されています。



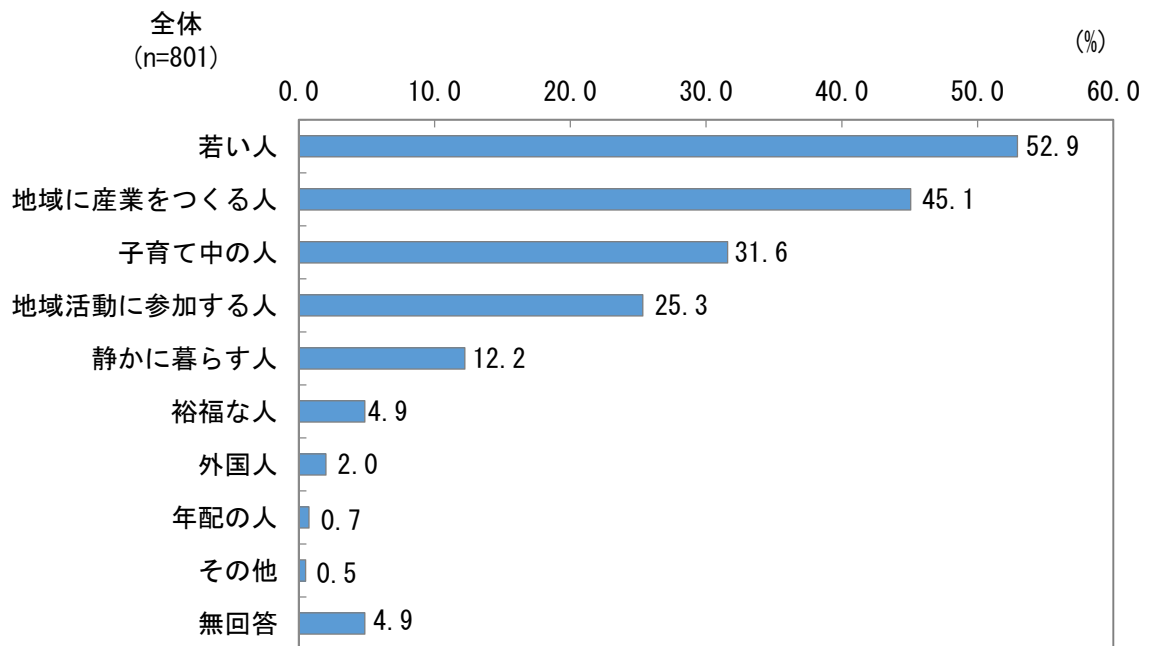
問24. **若者の起業・創業** (〇は2つまで)



若者が起業・創業するために必要な支援については、「起業時の補助金を充実する」(46.9%)が突出しています。このほかの回答は分散しており、資金面での支援がとりわけ重視されていると言えます。

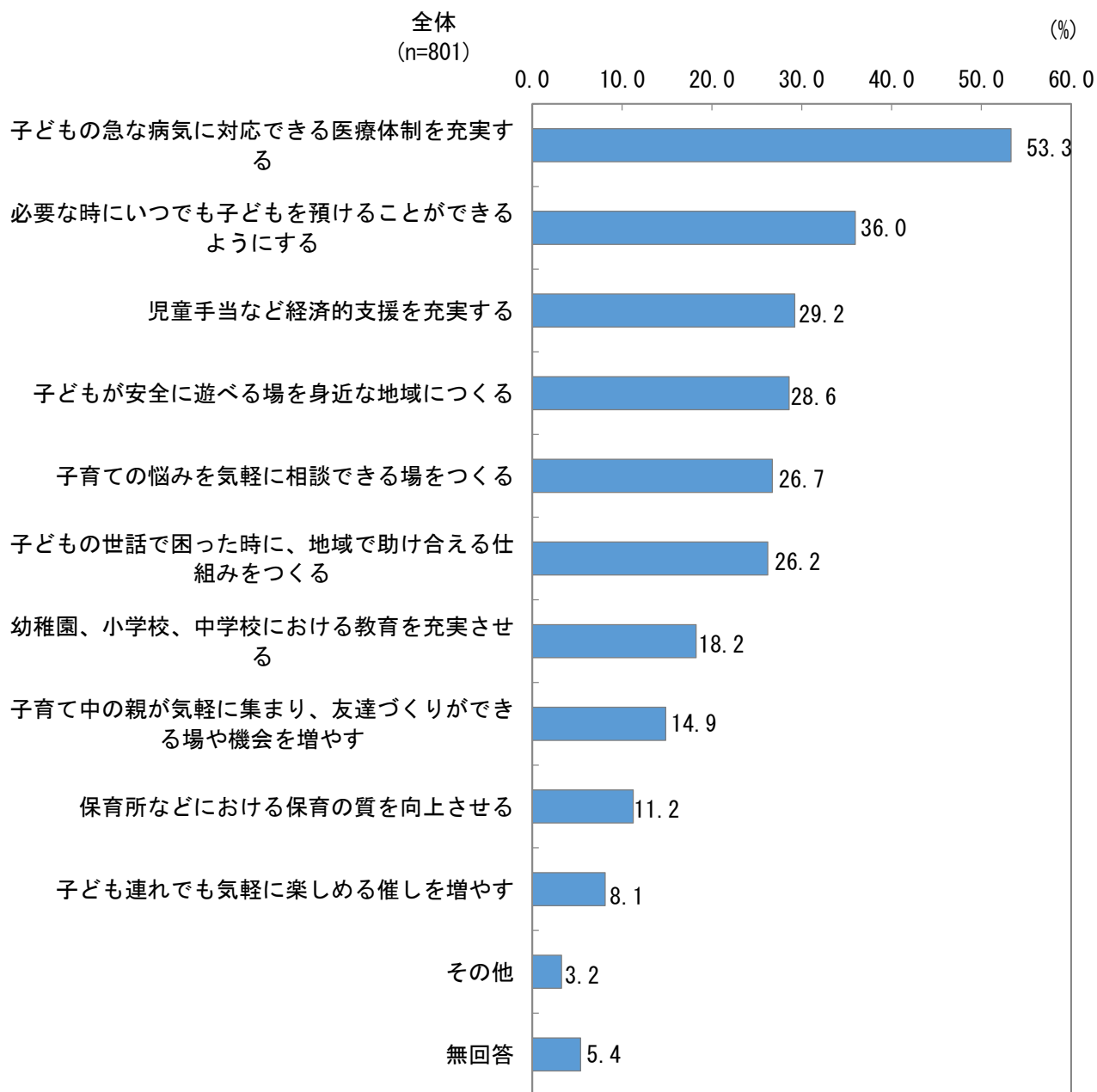
## 結婚・妊娠・出産・子育てを応援するまち、地域力が暮らしを支えるまち

問25. **移住者** (〇は2つまで)



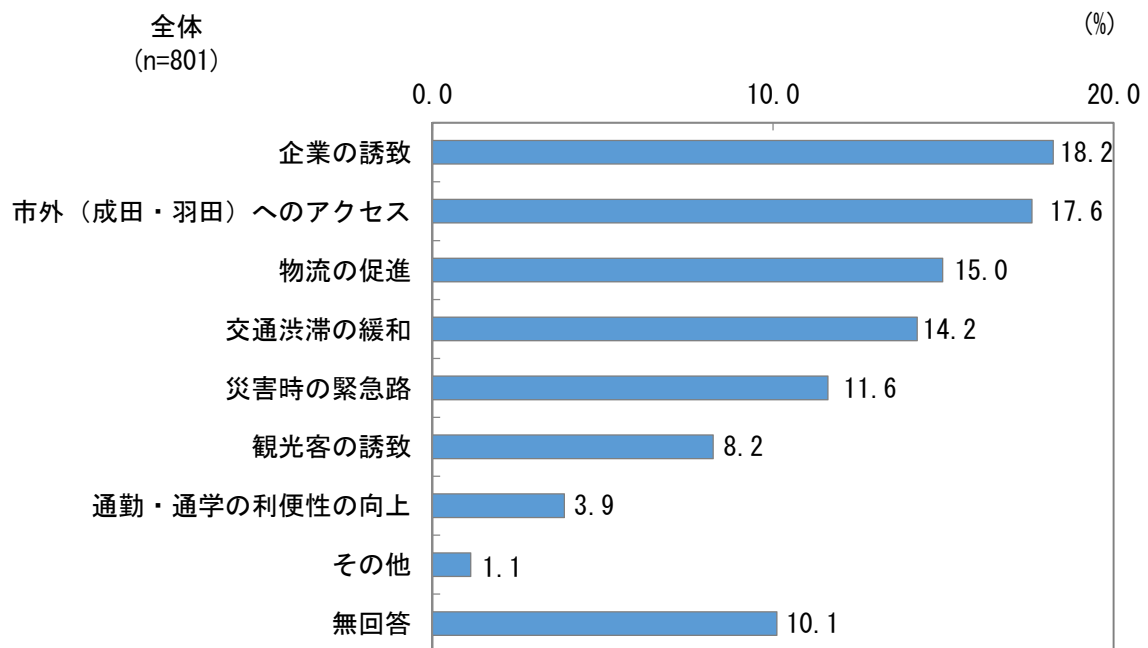
どのような人に移住してきてもらいたいかについては、「若い人」が 52.9%で突出しています。このほか、「地域に産業をつくる人」(45.1%)「子育て中の人」(31.6%)「地域活動に参加する人」(25.3%)も回答が集中しており、全体として、子育てや仕事を通じて地域に活力をもたらす人の移住が望まれていると言えます。

問26. 子育てしやすいまちづくり (〇は3つまで)



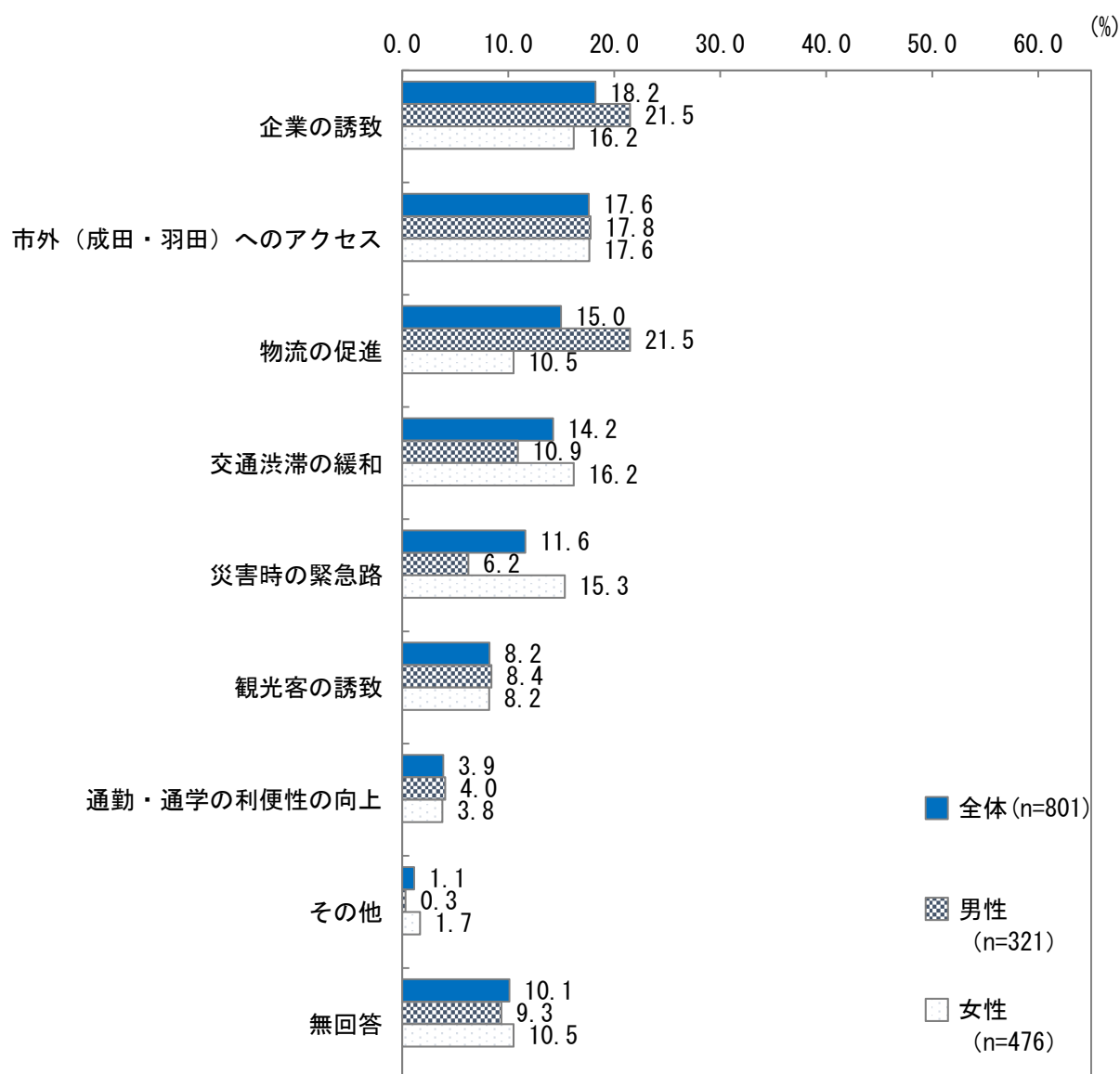
子育てしやすいまちにするために大切なことについては、「子どもの急な病気に対応できる医療体制を充実する」(53.3%)が突出しているほか、「必要な時にいつでも子どもを預けることができるようにする」(36.0%)、「児童手当など経済的支援を充実する」(29.2%)が、それぞれ30%前後で、回答が集中しています。

問27. 圏央道の整備効果 (〇は1つだけ)



圏央道の整備効果については、「企業の誘致」(18.2%)と「市外(成田・羽田)へのアクセス」(17.6%)が拮抗しているほか、「物流の促進」も15.0%を占めています。市内外とのヒト・モノの移動の活性化が期待されていると考えられます。

〈性別〉



圏央道の整備効果について、性別に見ると、「物流の促進」では、男性が21.5%で女性の10.5%の約2倍となっています。また、「災害時の緊急路」については、女性が15.3%で、男性の6.2%を10ポイント近く上回っています。